

国立病院機構 大阪南医療センター

## 臨床研究業績集

第25号（平成21年度）

独立行政法人国立病院機構 大阪南医療センター

# 巻 頭 言

(独) 国立病院機構大阪南医療センターの平成21年度の臨床研究の活動状況をご報告申し上げます。国立病院機構では、臨床研究センターあるいは研究部（一部院内標榜）を設置し、臨床研究の推進を行っております。このような体制整備を含めた臨床研究の推進は国立病院機構の特筆すべき点のひとつであります。当センターでは臨床研究部として、その詳細は本報告書の機構図でご覧戴けますが、5室を置き、臨床研究を推進いたしております。当センターで行う臨床研究は、直接的には、医学・医療の発展や改善に繋がるものであります。同時に、研究をするという姿勢を通じて、日常の診療の中にある問題点を認知し、これを改善しようとの姿勢は、日常の医療水準の向上に繋がるものと考えます。さらには、研究活動を通じて、自己研鑽が行われ、共同研究では後進の教育や他職種間とのコミュニケーションの促進が行われるものと思っております。

医学の進歩は急速であり、特に基礎医学や生物学における進歩には著しいものがあります。そして、基礎医学における研究成果は、これもまた短時日に臨床応用に向けられる趨勢にあります。一方では、特に本邦においては、医療自体、またそれを取り巻く環境、超高齢社会、少子社会、経済の停滞などを含めて、厳しい条件、環境があり、難しい対応を迫られています。つまり、我々医療人を取り巻く環境は様々な方向へのベクトルが入り乱れ、立ち位置を見失いがちであります。

しかし、我々の立つ位置は地域医療であります。これを基軸に、行う医療を少しでも高める。そのための研究、研修を行います。その目標を立て、その達成に向けて計画を練り、実行し、評価する。この一連の繰り返しが重要であると考えております。大阪南医療センターは職員一同が、それぞれの持つ能力を最大限に発揮して、南河内を中心とした地域の健康水準の向上に、中心的役割を果たすことを目指して努力を続けたいと考えています。今後とも皆さまのご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。

独立行政法人 国立病院機構  
大阪南医療センター  
院長 米延 策雄

# 目 次

I. 臨床研究部の活動状況	1
II. 各研究室の活動報告	19
III. 奨励研究課題報告	32
IV. 業績	40
(1) 論文	40
1) 原著論文	40
欧文	40
邦文	46
2) 総説	49
(2) 学会報告	51
海外（国内開催の国際学会を含む）	51
国内	54
(3) 研究会・講演	66
(4) メディアなど	78
V. 主な論文	80

# I. 臨床研究部の活動状況

## 1. 平成 21 年度臨床研究部活動総括

臨床研究部長 佐伯行彦

先日、国立病院機構本部からH 2 1 年度の臨床研究活動実績評価ポイントの集計結果の報告がありました（参考資料 1）。当院の研究実績評価については、平成 2 1 年度は、合計 9 9 5 . 8 ポイントで臨床研究センター 1 0 施設を含む、合計 1 2 6 施設中 2 1 位でした。過去 3 年間の平均では、1 7 位であり、ほぼ例年どおりの評価を得ることができました。部門別評価では、免疫異常 6 1 9 . 8 ポイント、循環器 3 4 9 . 8 ポイント、骨・運動器 2 7 8 . 9 ポイントでその他、肝疾患、外科麻酔、感染症が 1 0 0 ポイント以上でした（参考資料 2 : 部門別ポイントは 2 分野に振り分けているため 2 倍のポイントとなっています）。項目別では、昨年同様、機構研究への参加（症例のエントリー）が少ない傾向がありました。

一方、治験については計画の 100%以上を達成しました。また、新しいタイプのワクチンであるリコンビナントインフルエンザ（H 5 N 1 に対する）ワクチンの治験を国内では東京医療センターとともに 2 施設のみ選定を受け、計画どおり実施し、高く評価されました。被験者としてご協力いただきました職員の方々にはこの場を借りて、御礼を申し上げます。

また、3 月には恒例の臨床研究部公開研究発表会が開催されましたが、昨年にも増して医師以外の職種の方の積極的な研究への参加があり、日常医療の現場で抽出した問題を研究のテーマとし、すぐ還元・実践できるような成果を上げた研究もあり、その質も年々向上していることが実感できましたが、今後とも、より上を目指して頑張ってくださいことを期待しています。

診療、教育とともにNHOのidentityのひとつである臨床研究をより推進し、その成果をNHOだけでなく、日本全体の医療の向上に貢献できるようにしたいと思います。

ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

臨床研究活動実績評価ポイント(平成21年度実績)

H21'実績 順位	施設名	区分	H21'活動実績 合計ポイント	H20'活動実績 合計ポイント	H19'活動実績 合計ポイント	過去3年平均 点数	過去3年 実績順 位 (平均点数)
1	大阪医療センター	センター	5,104.710	3,888.049	3,952.158	4,315.0	1
2	名古屋医療センター	センター	4,837.796	3,816.307	3,288.760	3,981.0	2
3	東京医療センター	センター	3,798.910	3,362.649	2,140.300	3,100.6	4
4	京都医療センター	センター	3,381.652	2,685.692	2,299.692	2,789.0	7
5	九州医療センター	センター	3,008.900	3,268.440	3,555.432	3,277.6	3
6	長崎医療センター	センター	2,896.352	3,307.787	2,791.782	2,998.6	6
7	相模原病院	センター	2,748.512	3,188.126	3,122.669	3,019.8	5
8	九州がんセンター	部	2,298.494	2,190.624	2,341.415	2,276.8	8
9	四国がんセンター	部	2,192.152	2,127.878	1,631.900	1,984.0	9
10	仙台医療センター	部	1,690.580	1,011.080	1,349.350	1,350.3	13
11	近畿中央胸部疾患センター	センター	1,475.608	1,532.446	2,023.452	1,677.2	10
12	三重病院	部	1,379.746	2,054.918	1,025.646	1,486.8	11
13	岡山医療センター	部	1,358.600	1,209.716	1,343.104	1,303.8	15
14	三重中央医療センター	部	1,294.402	1,425.800	468.845	1,063.0	18
15	千葉東病院	センター	1,276.704	1,098.790	1,121.200	1,165.6	16
16	呉医療センター	部	1,221.630	1,559.414	1,235.818	1,339.0	14
17	熊本医療センター	部	1,191.784	1,524.404	1,492.250	1,402.8	12
18	金沢医療センター	部	1,040.834	746.806	776.666	854.8	22
19	福岡病院	部	1,037.584	846.028	1,032.530	972.0	20
20	静岡てんかん・神経医療センター	部	1,027.019	1,085.608	977.144	1,029.9	19
21	大阪南医療センター	部	995.816	1,112.844	1,134.192	1,081.0	17
22	災害医療センター	部	916.448	1,121.852	625.788	888.0	21
23	水戸医療センター	部	888.924	941.178	509.510	779.9	23
24	東京病院	部	866.592	851.780	496.870	738.4	24
25	岩国医療センター	部	754.688	643.844	569.480	656.0	28
26	鹿児島医療センター	部	721.975	667.356	667.574	685.6	27
27	西多賀病院	部	710.408	534.762	306.276	517.1	34
28	北海道がんセンター	部	651.676	696.710	758.582	702.3	26
29	千葉医療センター	部	645.460	588.818	378.682	537.7	32
30	宇多野病院	部	629.654	576.764	690.150	632.2	29
31	刀根山病院	部	565.602	597.652	439.074	534.1	33
32	山口半部医療センター	部	556.612	408.344	289.284	418.1	46
33	高知病院	部	549.800	670.844	532.246	584.3	30
34	久里浜アルコール症センター	部	542.556	942.484	629.152	704.7	25
35	茨城東病院	院内標榜	521.250	544.662	222.600	429.5	44
36	東埼玉病院	部	520.306	590.082	382.040	497.5	35
37	さいがた病院	部	506.526	140.322	175.374	274.1	69
38	埼玉医療センター	部	504.754	386.590	433.446	441.6	42
39	別府医療センター	部	503.340	391.746	332.824	409.3	47
40	横浜医療センター	部	494.240	585.704	305.572	461.8	41
41	香川小児病院	部	493.816	508.550	458.590	487.0	36
42	南岡山医療センター	部	469.376	653.962	606.802	576.7	31
43	道北病院	部	469.030	409.546	303.458	394.0	48
44	村山医療センター	センター	459.606	553.810	444.232	485.9	37
45	西群馬病院	部	409.976	463.468	383.388	418.9	45
46	徳島病院	部	402.484	663.863	359.800	475.4	39
47	下志津病院	部	398.304	470.730	535.438	468.2	40
48	西新潟中央病院	部	394.518	414.172	630.450	479.7	38
49	福岡東医療センター	部	391.236	361.648	570.650	441.2	43
50	関門医療センター	部	390.608	359.596	329.214	359.8	54
51	神戸医療センター	院内標榜	383.742	316.122	233.200	311.0	64
52	宮城病院	部	376.720	361.992	313.770	350.8	57
53	新潟病院	部	376.642	287.880	443.050	369.2	51
54	まつもと医療センター	部	367.924	334.322	366.070	356.1	56
55	大牟田病院	部	360.986	322.594	310.132	331.2	59
56	東広島医療センター	部	359.400	129.650	348.450	279.2	68
57	肥前精神医療センター	部	333.694	349.022	296.538	326.4	62
58	小倉医療センター	部	332.186	405.136	386.460	374.6	50
59	長良医療センター	院内標榜	331.790	200.894		266.3	71
60	福山医療センター	部	327.978	386.438	362.128	358.8	55
61	静岡医療センター	部	323.346	412.112	394.556	376.7	49
62	埼玉病院	部	318.728	265.212	304.734	296.2	67
63	南九州病院	院内標榜	318.018	196.550		257.3	73
64	舞鶴医療センター	部	316.120	360.894	247.523	308.2	65
65	米子医療センター	部	315.801	359.766	285.828	320.5	63
66	鈴鹿病院	院内標榜	313.438	186.328	116.470	205.4	83

## 臨床研究活動実績評価ポイント(平成21年度実績)

H21'実績 順位	施設名	区分	H21'活動実績 合計ポイント	H20'活動実績 合計ポイント	H19'活動実績 合計ポイント	過去3年平均 点数	過去3年 実績順位 (平均点数)
67	高崎総合医療センター	院内標榜	312.619	215.973	173.360	234.0	77
68	広島西医療センター	院内標榜	307.750	161.850	111.250	193.6	85
69	熊本再春荘病院	部	305.184	388.254	394.506	362.6	53
70	長崎川棚医療センター	部	299.008	418.200	266.650	328.0	61
71	普通寺病院	部	295.948	369.062	363.822	342.9	58
72	函館病院	部	290.792	429.460	371.394	363.9	52
73	姫路医療センター	院内標榜	280.900	264.998		272.9	70
74	北海道医療センター	部	270.306	130.350	—	200.3	84
75	松江医療センター	院内標榜	258.612	268.362	162.178	229.7	79
76	東名古屋病院	部	252.790	281.558	453.768	329.4	60
77	愛媛病院	院内標榜	249.734	256.732	209.244	238.6	75
78	栃木病院	院内標榜	246.814	403.818	238.500	296.4	66
79	宇都宮病院	部	230.116	201.230	331.034	254.1	74
80	南和歌山医療センター	院内標榜	224.738	237.842	213.300	225.3	80
81	弘前病院	部	222.354	207.198	260.010	229.9	78
82	鳥取医療センター	部	220.812	342.390	231.500	264.9	72
83	菊池病院	部	219.450	314.100	181.400	238.3	76
84	南京都病院	院内標榜	216.700	185.750	101.750	168.1	91
85	医王病院	院内標榜	214.222	224.250	89.266	175.9	87
86	豊橋医療センター	部	197.350	215.000	225.570	212.6	82
87	東徳島病院	院内標榜	184.562	111.270	114.534	136.8	94
88	山形病院	院内標榜	182.682	196.125	27.000	135.3	95
89	浜田医療センター	院内標榜	177.166	330.400	161.450	223.0	81
90	沖縄病院	院内標榜	163.250	157.600	187.560	169.5	90
91	西埼玉中央病院	院内標榜	159.100	255.700	161.250	192.0	86
92	高松医療センター	院内標榜	157.690	150.744	133.428	147.3	93
93	佐賀病院	院内標榜	155.950	123.000	27.800	102.3	99
94	天竜病院	院内標榜	144.622	211.252	153.954	169.9	89
95	青森病院	院内標榜	136.604	64.950	52.700	84.8	104
96	長野病院	院内標榜	135.950	137.150	254.250	175.8	88
97	大分医療センター	院内標榜	130.400	82.600	284.428	165.8	92
98	熊本南病院	院内標榜	122.420	105.850		114.1	96
99	米沢病院	院内標榜	109.868	100.934	68.186	93.0	101
100	帯広病院	院内標榜	105.250	121.650	85.350	104.1	97
101	都城病院	院内標榜	103.250	48.650	118.500	90.1	102
102	奈良医療センター	院内標榜	103.154			103.2	98
103	岩手病院	院内標榜	101.100	82.500	29.250	71.0	107
104	あわら病院	院内標榜	89.780	55.680	41.350	62.3	109
105	甲府病院	院内標榜	88.860			88.9	103
106	花巻病院	院内標榜	66.100	11.000	103.750	60.3	111
107	松籟荘病院	院内標榜	64.694	34.478		49.6	116
108	宮崎東病院	院内標榜	63.900	44.250		54.1	114
109	八雲病院	院内標榜	56.500			56.5	112
110	八戸病院	院内標榜	55.000			55.0	113
111	七尾病院	院内標榜	53.000	53.800	78.000	61.6	110
112	西別府病院	院内標榜	50.750	43.150	104.700	66.2	108
113	箱根病院	院内標榜	44.246	31.490	20.250	32.0	122
114	賀茂精神医療センター	院内標榜	44.000	38.700	32.000	38.2	118
115	兵庫中央病院	院内標榜	40.750			40.8	117
116	盛岡病院	院内標榜	38.550	113.500	97.600	83.2	105
117	下総精神医療センター	院内標榜	38.250	96.050	106.750	80.4	106
118	北陸病院	院内標榜	37.750	40.604	25.050	34.5	120
119	福島病院	院内標榜	33.750			33.8	121
120	神奈川病院	院内標榜	25.000	4.600	15.200	14.9	125
121	霞ヶ浦医療センター	院内標榜	23.750	142.500	113.660	93.3	100
122	榊原病院	院内標榜	22.500	9.500	19.250	17.1	124
123	東尾張病院	院内標榜	21.000	64.000	76.500	53.8	115
124	釜石病院	院内標榜	17.250	44.650	50.100	37.3	119
125	小諸高原病院	院内標榜	13.000	31.000	16.000	20.0	123
126	いわき病院	院内標榜	4.750			4.8	126
	合計	126	75,526.410	73,314.861	64,018.062	70,953.1	

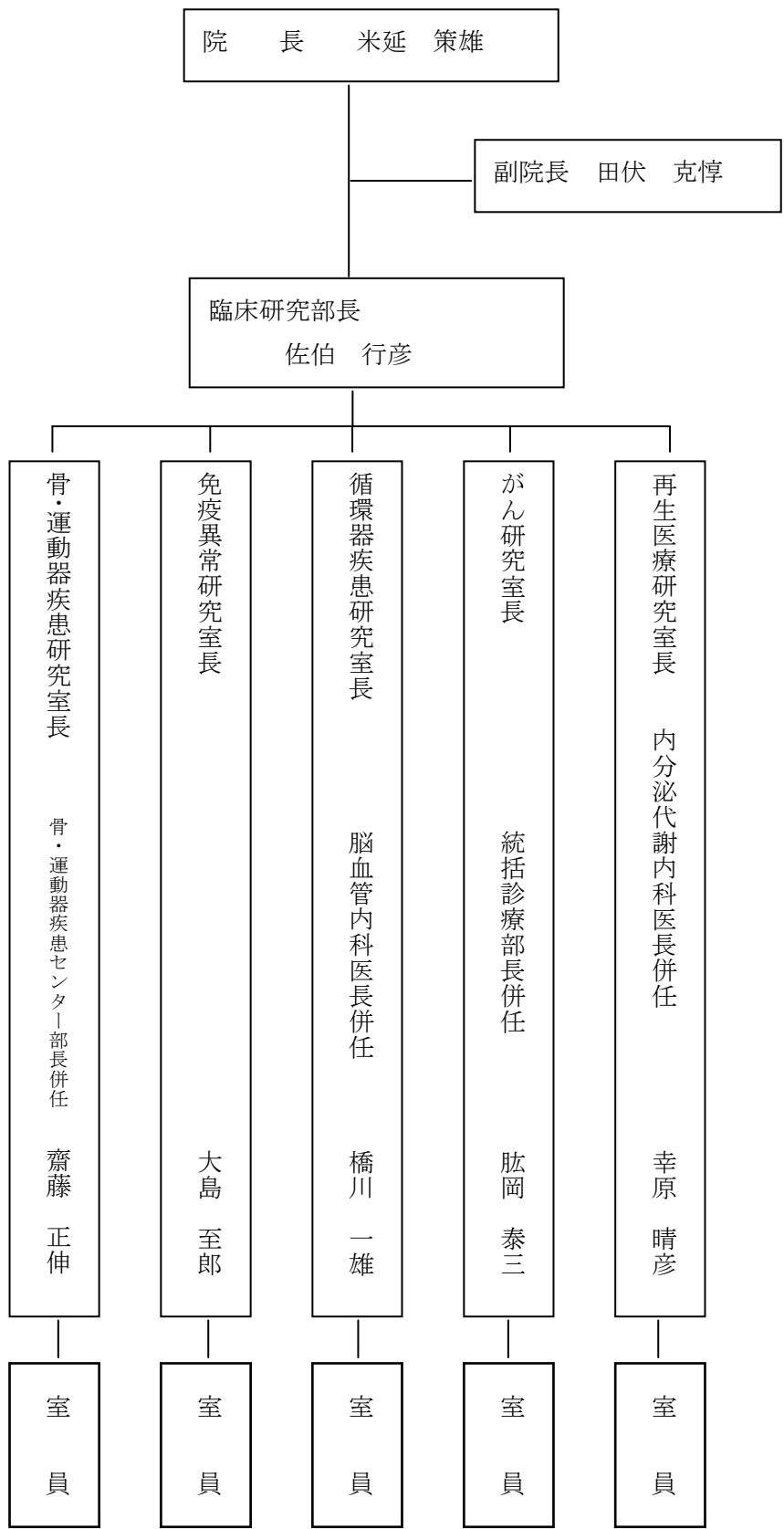
## 領域別研究力ポイント表

施設名	大阪南医療センター		臨床研究部					
※本票は自動計算されるので、記入する必要はありません。様式が正しく記入されていない場合、正確な数値が反映されない場合があります。								
	1-1 治験	1-2 EBM	1-3 機構研究 症例数	1-4 プロトコル数	2 競争的資 金	3 特許等	4 業績発表	合計
がん (呼吸器)	10.000							10.000
がん(消化器)	9.000						8.000	17.000
がん (一般)							8.000	8.000
循環器	51.000	38.500			44.000		216.280	349.780
脳卒中								
心筋梗塞								
精神疾患								
神経・筋疾患								
筋ジストロフィー								
感染症		100.000						100.000
成育医療	0.500						10.000	10.500
重症心身障害児(者)								
エイズ							1.000	1.000
糖尿病	2.500			6.000			46.748	55.248
感覚器	5.000							5.000
骨・運動器疾患	30.000	38.500			40.000		170.452	278.952
免疫異常	340.500			24.000	115.000		140.352	619.852
血液疾患	4.500						1.000	5.500
呼吸器疾患							24.676	24.676
結核								
肝疾患	18.000		1.200		20.000		66.528	105.728
消化器疾患							7.000	7.000
外科・麻酔科	25.500			6.000	18.000		107.396	156.896
経営管理							30.000	30.000
その他(多施設共同)	7.500	1.000					30.000	38.500
合計	504.000	178.000	1.200	36.000	237.000		867.432	1823.632

2. 平成 21 年度臨床研究部組織／施設／主要大型研究機器

(1) 組織：部員数（専任 6 名，併任 86 名）

	氏名	専任・併任	備考
臨床研究部長	佐伯 行彦	専任	免疫疾患センター部長 治験管理室長
免疫異常研究室室長	大島 至郎	専任	
〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 室員		併任	12 名
〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 室員		専任	実験助手 2 名
循環器疾患研究室長	橋川 一雄	併任	脳血管内科医長
〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 室員		〃 〃	18 名
再生医療研究室長	幸原 晴彦	〃 〃	内分泌代謝内科医長
〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 室員		〃 〃	12 名
〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 室員		専任	実験助手 2 名
がん研究室長	肱岡 泰三	併任	統括診療部長 がん疾患センター部長
〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 室員		〃 〃	31 名
骨・運動器疾患研究室長	齋藤 正伸	〃 〃	骨・運動器疾患センター部長 整形外科医長 地域医療連携室長
〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 室員		〃 〃	9 名



(2) 施設：

専有面積：研究室 394.23 m<sup>2</sup>、動物実験施設 209 m<sup>2</sup>

(3) 主要大型研究機器：

研究機器名称	主な用途	設置時期
DNA ジェネティックアナライザー	遺伝子データの解析	平成10年2月
自動サンプル調整システム	DNA、mRNA、蛋白、細胞成分の純化	平成14年3月
マルチラベルカウンター	細胞マーカーの解析	平成14年3月
顕微鏡イメージングシステム	特定の分子の動的解析	平成17年2月
高速液体クロマトグラフィー	蛋白分子の解析	平成20年3月

3. 平成21年度研究課題一覧 (◎は奨励研究課題)

	研究課題名	分野/ネットワーク活用の有無	研究責任者
1	関節リウマチにおけるガラクトース欠損IgGの病因的役割の解析	免疫/無	大島 至郎
2	自然免疫を担うCD14とアレルギーとの関係	呼吸器/無	松野 治
3	VEGF受容体を発現している大腸癌は手術侵襲にて癌の増殖、転移を促進するか否かを検討する	外科/無	玉川 孝治
4	授乳婦への医薬品情報提供システムの構築	産婦人科/無	神田 隆善
5	地域連携による生活習慣病治療体制	内分泌・代謝/無	幸原 晴彦
6	施設横断的医療情報ネットワークの構築	第三内科/無	幸原 りさ
7	心肺機能停止患者蘇生時の血液ガス、生化学所見についての検討	麻酔科/無	田村 栄稔

8		腰椎椎体間固定術後の隣接椎間障害に関する研究	骨・運動/無	海渡 貴司
9	◎	生物学的製剤投与が関節リウマチ患者の頸椎病変に与える影響	骨・運動/無	海渡 貴司
10		人工関節置換術における効果的な周術期疼痛管理プロトコルの検討	骨・運動/無	小山 毅
11		骨折整復支援ロボットの開発および臨床使用に向けての基礎的研究	骨・運動/無	小山 毅
12		3次元動作解析装置を用いた脊椎上肢機能評価	骨・運動/無	秋田 鐘弼
13		64列MDCTを用いた冠動脈ステント描出能についての基礎的検討	放射線科/無	西野 敏博
14		液状検体を用いた子宮内膜細胞診の精度向上	がん・検査科(病理)/無	棟方 哲
15	◎	オーダーリング機能を利用したシステムでの抗癌剤用量の是正の試み	薬剤科/無	森本 茂文
16		感染対策室における結核感染防止対策への取り組み	I C T /無	奥村 裕子
17	◎	南河内医療圏の在宅看護での栄養管理の実態調査	栄養管理室/無	田井中 幸子
18		タッチパネル式ノートパソコン利用した診療支援への取り組み	医療情報管理室/無	大島 至郎
19	◎	社会資源としてのSHGの有用性 一患者会・患者サロンを中心とした半構造的面接調査一	地域医療連携室/無	萬谷 和広
20	◎	RA患者の医療連携システムの構築 ～かかりつけ医との医療連携強化に向けた取り組み～	地域医療連携室/無	岩瀬 嘉壽子
21	◎	院内母乳育児支援システムを応用した地域助産師との母乳育児支援連携	看護部/無	齋木 博美
22		外科手術・入院オリエンテーションの充実を目指して～外来と病棟の連携を図る～	看護部/無	谷口 あゆみ
23	◎	当院の退院支援システムの構築～チームで取り組む退院支援体制の整備に向けた取り組み～	看護部/無	川上 浩美
24		看護学生における母乳育児に関する意識の実態	看護学校/無	林 律子
25	◎	看護基礎教育における薬物療法看護の教授方法の検討	看護学校/無	井下 美恵

#### 4. 平成 21 年度に獲得した研究費

研究課題名	研究費区分	研究費額 (千円)
関節リウマチ患者の現状と問題点を解析するための多施設共同疫学研究	厚生労働科学研究費	500
脊柱靭帯骨化症に関する調査研究	厚生労働科学研究費	1,000
SPECT 検査の精度向上と施設間誤差のない標準的診断法の確立 (分担)	厚生労働科学研究費	1,000
「診断用放射線医薬品に関する臨床評価ガイドライン」の作成に関する研究 (分担)	厚生労働科学研究費	100
データマイニング手法を用いた効果的な治療方法に関する研究 (分担)	厚生労働科学研究費	1,000
BMP-2 遺伝子導入骨髄細胞を用いた局所遺伝子治療による脊椎固定	日本学術振興会 (優秀若手研究者海外派遣事業)	5,276
糖尿病性腎症発症阻止のための家庭血圧管理指針の確立	EBM 推進大規模臨床研究	360
重症褥瘡 (Ⅲ度以上) に対する局所治療・ケアの適切性に関する研究 - ポケット切開・洗浄消毒処置を中心に -	EBM 推進大規模臨床研究	135
心房細動における心原性脳塞栓予防における抗血栓療法一標準的医療の確立に向けて一	EBM 推進大規模臨床研究	150
気管支鏡検査時の感染症合併と抗菌薬投与に関する他施設調査研究	EBM 推進大規模臨床研究	270
胃静脈瘤に対する治療方針の確立に関する研究	EBM 推進大規模臨床研究	100
人工関節置換術後の静脈血栓塞栓症の実態と予防に関する臨床研究	EBM 推進大規模臨床研究	8,710

B 型慢性肝疾患に対するエンテカビル治療およびラミブジン・アデホビル併用療法の薬剤耐性変異に関する検討	国立病院機構共同臨床研究費	500
本邦におけるウイルス性急性肝炎の発生状況と治療法に関する研究	国立病院機構共同臨床研究費	600
急性心筋梗塞地域連携パスの標準化と有効性の検討	国立病院機構共同臨床研究費	500
冠動脈疾患を合併した脂質異常症におけるLDL-C 管理目標値設定の検討	国立病院機構共同臨床研究費	300
学会ガイドラインに基づく原発性アルドステロン症の診断と効果的な薬物治療法の確立	国立病院機構共同臨床研究費	300
深部静脈血栓症および肺塞栓症に対する悉皆登録研究	国立病院機構共同臨床研究費	300
超早期治療介入による関節リウマチ (RA) 発症抑制に関する前向き研究	国立病院機構共同臨床研究費	6,000
抗血小板剤クロピドグレル内服患者における上部消化管出血の調査研究	国立病院機構共同臨床研究費	230
ヘリコバクター・ピロリ三次除菌療法としての高用量ラベプラゾール+アモキシシリン療法の有用性の検討	国立病院機構共同臨床研究費	900
糖尿病足病変ハイリスク患者への外来での予防的フットケアの有効性に関する研究	国立病院機構共同臨床研究費	300
骨粗鬆症性椎体骨折後の新規椎体骨折の危険因子の解明	国立病院機構共同臨床研究費	230
肝疾患	NHO グループ	100
がん疾患	NHO グループ	65
骨運動器疾患	NHO グループ	2,500
SPECT を用いた脳血管病変診断法の標準化と臨床的評価	循環器研究委託事業	1,700

新型インフルエンザ A (H1N1) に対するインフルエンザ HA ワクチンの安全性の研究	共同研究	5,000
H1N1-SURVEY 付随研究	共同研究	300
死後画像診断(Ai)を活用した死因究明手法有効性の検証に関する調査研究	共同研究	150
治験の実施に関する研究「タクロリムス水和物」	CCT-C-1859	2,650
退院調整看護師のがん終末期患者への退院支援のプロセスとその役割に関する研究	民間の研究助成金等	1,000
社会資源としての SHG の有用性 ー患者会・患者サロンを中心とした半構造的面接調査ー	臨床研究部経費	450
当院の退院支援システムの構築～チームで取り組む退院支援体制の整備に向けた取り組み～	臨床研究部経費	450
オーダーリング機能を利用したシステムでの抗癌剤用量の是正の試み	臨床研究部経費	450
生物学的製剤投与が関節リウマチ患者の頸椎病変に与える影響	臨床研究部経費	450
南河内医療圏の在宅看護での栄養管理の実態調査	臨床研究部経費	450
RA 患者の医療連携システムの構築 ～かかりつけ医との医療連携強化に向けた取り組み～	臨床研究部経費	450
院内母乳育児支援システムを応用した地域助産師との母乳育児支援連携	臨床研究部経費	450
看護基礎教育における薬物療法看護の教授方法の検討	臨床研究部経費	450
合 計		45,826

## 5. 平成 21 年度研究発表

- (1) 学会発表：国内 100 件、国際 11 件 合計 111 件
- (2) 論文発表：邦文 28 編 (うち筆頭著書 17 編)  
 欧文 37 編 (うち筆頭著書 12 編)  
 合計 65 編 (うち筆頭著書 29 編)

6. 平成 21 年度研究発表会

# 第7回 国立病院機構大阪南医療センター 臨床研究部公開研究発表会

日時：平成 22 年 3 月 12 日（金） 15:00～18:00

会場：免疫疾患医療研修センター

◆ 開会の挨拶 15:00～15:05 佐伯行彦 臨床研究部長

◆ 第一部 15:05～16:25 座長 大島至郎研究室長

- H21 年度奨励研究課題の発表**（1 課題 10 分質疑応答を含む） 研究代表者／所属
- (1) 社会資源としての SHG の有用性 萬谷和広（地域医療連携室）  
—患者会・患者サロンを中心とした半構造的面接調査—
  - (2) 当院の退院支援システムの構築 川上浩美（東館 7 階病棟）  
～チームで取り組む退院支援体制の整備に向けた取り組み～
  - (3) オーダリング機能を利用したシステムでの抗癌剤用量の是正の試み 森本茂文（薬剤科）
  - (4) 生物学的製剤投与が関節リウマチ患者の頸椎病変に与える影響 海渡貴司（整形外科）  
発表者 藤原啓恭
  - (5) 南河内医療圏の在宅看護での栄養管理の実態調査 田井中幸子（栄養管理室）
  - (6) RA 患者の医療連携システムの構築 岩瀬嘉壽子（地域医療連携室）  
～かかりつけ医との医療連携強化に向けた取り組み～
  - (7) 院内母乳育児支援システムを応用した地域助産師との 齋木博美（西館 3 階病棟）  
母乳育児支援連携 発表者 作田美穂
  - (8) 看護基礎教育における薬物療法看護の教授方法の検討 井下美恵（看護学校）

休憩 15 分（投票）

◆ 第二部 16:40～17:40 座長 臨床研究部長

**各研究室発表**（各 10 分質疑応答を含む）

- ①免疫異常研究室 「自己免疫疾患と糖鎖異常」 大島至郎
- ②循環器疾患研究室 「QSPECT による脳血流量測定：再構成法および採血誤差についての考察」 橋川一雄
- ③がん研究室 「p53 の遺伝子変異と多型解析による大腸癌化学療法の効果予測」 富永敏治
- ④骨運動器疾患研究室 「腰椎椎体間固定術後の「椎間の持ち上げ距離」の隣接椎間障害への 藤原啓恭  
影響について」
- ⑤再生医療研究室 「糖尿病地域医療連携から南河内医療情報連携への展開」 幸原晴彦
- ⑥治験管理室 「平成 21 年度 治験管理室 業務報告」 平木精一

◆ 閉会の挨拶（講評、優秀賞発表／表彰） 米延策雄 院長

7. 平成 21 年度受託研究（治験等）（括弧内は平成 20 年度）

研究課題数 103 件（93 件）  
 契約金額 155,567,173 円（93,891,762 円）  
 実施率 51.2%（41.2%）

受託研究一覧：

No.	フェーズ	依頼者	研究課題名	診療科	H21年度 契約金額
1	Ⅳ	ファイザー(株)	ジェントロピン特定使用成績調査(KIGS)	小児科	90,090
2	-	ジンマー(株)	クロスリンクポリエチレンライナーの脱臼及び摩耗性に関する研究	整形外科	294,716
3	Ⅳ	中外製薬(株)	アクテムラ点滴静注用200 特定使用成績調査	リウマチ科	270,270
4	Ⅲ	ファイザー(株)	関節リウマチを対象としたCP-690、550の非盲検・非対照長期試験	リウマチ科	17,648,820
5	Ⅳ	中外製薬(株)	アクテムラ点滴静注用 特定使用成績調査	リウマチ科	450,450
6	Ⅳ	中外製薬(株)	タルセバ錠 特定使用成績調査(全例調査)	呼吸器科	540,540
7	Ⅱ/Ⅲ	大塚製薬(株)	CDP870のMTX併用時の有効性検証試験 メトトレキサート(以下、MTX)により十分な効果が得られなかった活動性関節リウマチ患者を対象に、MTXとの併用投与にCDP870の有効性を検討し、副次的に日本人における反応性、薬物動態及び安全性を検討する多施設共同、無作為化、プラセボ対照、二重盲検、並行群間比較試験	リウマチ科	6,469,663
8	Ⅳ	メルクセローノ(株)	アービタックス注射液100mg 使用成績調査(全例調査)	外科	150,150
9	Ⅲ	大塚製薬(株)	CDP870のMTX併用時の長期継続投与試験活動性関節リウマチ患者を対象としたCDP870のメトトレキサート(以下、MTX)併用時の有効性検証試験(以下、275-08-001試験)からの移行例を対象に、CDP870とMTXを長期間併用投与した際の安全性及び有効性を検討する多施設共同、非盲検、長期	リウマチ科	3,796,392

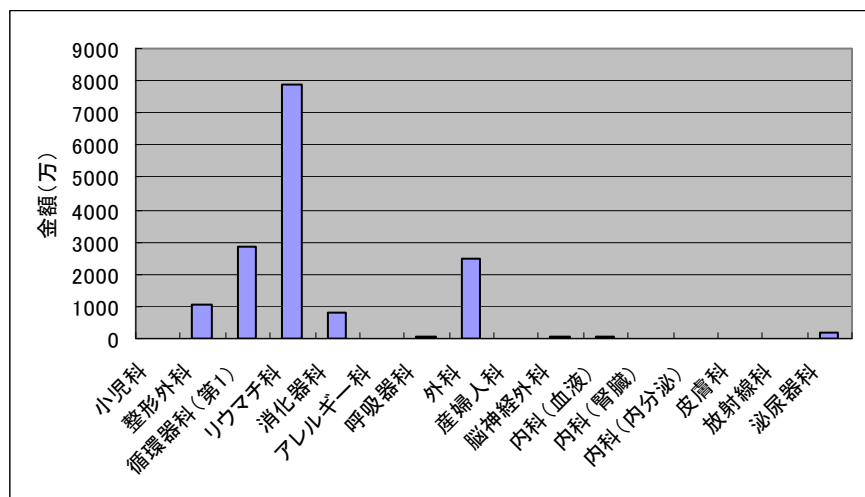
			安全性試験		
10	Ⅲ	アボットジャパン(株)	日本人関節リウマチ患者を対象としたアダリムマブ(D2E7)による関節破壊進展防止試験	リウマチ科	11,578,216
11	Ⅱ	ファイザー(株)	標準治療を受けている急性冠症候群患者を対象とするAPIXABAN 24週間投与時の安全性および有効性評価を目的としたプラセボ対照、多施設共同、無作為化、プラセボ対照、二重盲検、並行群間比較試験	循環器科 (心臓)	11,320,260
12	Ⅲ	バイエル薬品(株)	発症後間もない急性冠症候群(ACS)患者におけるリバロキサバンの有効性および安全性を検討する無作為化二重盲検プラセボ対照イベント主導型多施設共同試験	循環器科 (心臓)	11,818,831
13	Ⅳ	藤本製薬(株)	サレドカプセル100(サリドマイド)特定使用成績調査(製剤切り換え時の調査)	血液内科	585,585
14	Ⅳ	藤本製薬(株)	サレドカプセル100(サリドマイド)使用成績調査	血液内科	300,300
15	Ⅳ	ノバルティルスファーマ(株)	ゾレア皮下注用 特定使用成績調査(気管支喘息)	アレルギー科	45,045
16	Ⅳ	塩野義製薬(株)	ピレスパ錠200mg 特定使用成績調査	呼吸器科	135,135
17	-	大正富山医薬品(株)	ジェニナック錠の副作用調査	皮膚科	30,030
18	Ⅳ	メルクセローノ(株)	アービタックス注射液 100mg 使用成績調査(消化器科)	消化器科	60,060
19	Ⅱ	ファイザー(株)	CP-690,550 第Ⅱ相、無作為化、二重盲検比較、プラセボ対照、多施設共同、用量反応試験(関節リウマチを対象としたMono therapy試験)	リウマチ科	6,886,320
20	-	クラレメディカル(株)	ヒドロキシアパタイト混合レジン(CAP)の開発に関する医学専門家としての助言、指導の委託	整形外科	1,196,995
21	Ⅱ	武田薬品工業(株)	TAK-442の急性冠症候群患者を対象とした第Ⅱ相用量設定試験	循環器科 (心臓)	5,437,320
22	Ⅱ/Ⅲ	アステラス製薬(株)	YM150 第Ⅱ/Ⅲ相試験ー待機的股関節全置換術患者を対象としたプラセボ対照二重盲検群間比較試験ー	整形外科	5,267,562

23	Ⅱ/Ⅲ	アステラス製薬(株)	YM150 第Ⅱ/Ⅲ相試験ー待機的膝関節全置換術患者を対象としたプラセボ対照二重盲検群間比較試験ー	整形外科	3,511,708
24	Ⅳ	バイエル薬品(株)	ネクサバル錠200mg特定使用成績調査(長期調査)ー切除不能な肝細胞癌ー	消化器科	450,450
25	Ⅳ	バイエル薬品(株)	ネクサバル錠200mg特定使用成績調査(長期調査)ー切除不能な肝細胞癌ー	外科	225,225
26	Ⅳ	ファイザー(株)	スーテントカプセル12.5mg特定使用成績調査ー消化管間質腫瘍に対する調査ー	外科	630,630
27	Ⅳ	ファイザー(株)	スーテントカプセル12.5mg特定使用成績調査ー腎細胞癌に対する調査ー	泌尿器科	1,576,575
28	Ⅳ	HOYA株式会社	HOYA AFー1眼内レンズ安全情報調査(A定数調査)	眼科	300,300
29	Ⅱ	(株)UMN ファーマ	健康成人男女を対象とした組換えインフルエンザHAワクチンUMN-0501の3用量、21日間隔2回筋肉内接種による免疫原性、安全性及び臨床推奨用の検討ー多施設共同非盲験臨床試験[用量反応試験]ー	リウマチ科	23,124,301
30	Ⅱ	明治製菓株式会社	ME3738のIFN未治療のgenotype 1bかつ高ウイルス量のC型慢性肝炎患者を対象とした探索的試験(第Ⅱ相)	消化器科	7,629,436
31	Ⅳ	第一三共株式会社	スロンノンHI注10mg/2mL 使用成績調査	腎臓内科	30,030
32	-	(株)大塚製薬工場	アートセレブ脳脊髄手術用洗浄灌流液の副作用・感染症調査	脳神経外科	30,030
33	-	久光製薬(株)	モーラステープL40mgの副作用・感染症症例調査	アレルギー科	30,030
34	Ⅰ/Ⅱ	ワイス(株)	日本人活動性関節リウマチ患者を対象としてメトトレキサートと併用したときのATN-103の安全性、忍容性、薬物動態、薬力学及び有効性を評価する多施設共同、無作為化、プラセボ対照、二重盲検、用量漸増、反復投与試験)	リウマチ科	6,419,663
35	Ⅲ	アステラス製薬(株)	YM177第Ⅲ相試験(手術後疼痛)ー手術後疼痛患者を対象としたYM177(セレコキシブ)の有効性を検証するためのエトドラク及びプラセボ対照多施設共同二重盲検群間比較試験ー	外科	6,274,768

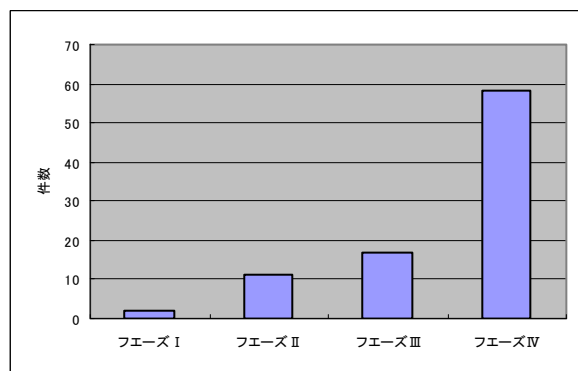
36	Ⅳ	(株)ヤクルト 本社	エルプラット注射用50mg、同100mg エルプラット点 滴注射液50mg、同100mg特定使用成績調査(結腸癌 における術後補助化学療法)	外科	450,450
37	-	興和創薬 (株)	モイオパーク 300 シリンジの副作用詳細調査	放射線科	30,030
38	-	武田薬品工 業(株)	エンブレル皮下注射用 シリンジ 25mg 副作用感 染症調査	リウマチ科	30,030
39	Ⅳ	第一三共 (株)	クラビット錠250mg・500mg・細粒10% 使用成績調査	腎臓内科	150,150
40	Ⅳ	第一三共 (株)	クラビット錠250mg・500mg・細粒10% 使用成績調査	内分泌代 謝内科	150,150
41	Ⅳ	第一三共 (株)	クラビット錠250mg・500mg・細粒10% 使用成績調査	脳血管内 科	150,150
42	Ⅳ	第一三共 (株)	クラビット錠250mg・500mg・細粒10% 使用成績調査	呼吸器科	150,150
43	Ⅳ	第一三共 (株)	クラビット錠250mg・500mg・細粒10% 使用成績調査	消化器科	150,150
44	Ⅳ	第一三共 (株)	クラビット錠250mg・500mg・細粒10% 使用成績調査	外科	150,150
45	-	アボットジャ パン(株)	ヒュミラ皮下注40mgシリンジ0.8ml 副作用等詳細調 査	リウマチ科	30,030
46	Ⅲ	(株)ヤクルト 本社	化学療法未治療の進行・再発胃癌に対する S-1/CDDP療法とS-1/L-OHP療法の無作為化比較 第Ⅲ相臨床試験	外科	16,693,677
47	-	田辺三菱製 薬(株)	ジオン注無痛化剤付 副作用報告(直腸潰瘍形成)	外科	30,030
48	Ⅳ	ファイザー (株)	レバチオ錠20mg特定使用成績調査ー長期使用に 関する調査ー(A1481263)	リウマチ科	180,180
49	-	アステラス製 薬(株)	タゴシッド副作用・感染症調査	脳神経外 科	30,030
50	Ⅳ	(株)大塚製 薬工場	アートセレブ®脳脊髄手術用洗浄灌流液 使用成績 調査(穿頭・開頭手術症例)	脳神経外 科	300,300
51	Ⅳ	持田製薬 (株)	ディナゲスト錠1mg特定使用成績調査	産婦人科	225,225
52	-	武田薬品工	エンブレル皮下注射用 シリンジ 25mg 副作用感	リウマチ科	30,030

		業(株)	感染症調査		
53	-	大鵬薬品工業(株)	ティーエスワンカプセル 副作用詳細調査	消化器科	30,030
54	IV	田辺三菱製薬(株)	献血ヴェノグロブリンIH 使用成績調査 (川崎病回復期及び小児ITPにおける発疹発現現状調査)	小児科	150,150
55	I / II	日本イーライリリー(株)	メトレキサートを使用している日本人関節リウマチ患者に対しLY2127399を反復皮下投与したときの安全性、忍容性、薬物動態及び薬力学的特性の検討	リウマチ科	1,850,185
		合計			155,567,173

診療科別契約金額



フェーズ別件数



平成 21 年度受託研究（治験等）審査委員会名簿

構成員	官職・所属	氏名
委員長	臨床研究部長	佐伯 行彦
副委員長	薬剤科長	北村 良雄
外部委託委員	弁護士（弁護士法人淀屋橋・山上合同）	四宮 章夫
〃 〃 〃 〃 〃 〃	元日本リウマチ友の会大阪支部長	北野 嬋子
〃 〃 〃 〃 〃 〃	学校法人大阪滋慶学園特別顧問 元神戸薬科大学教授	林 信一
内部委員	副院長	田伏 克惇
〃 〃 〃 〃	事務部長	池田 良一
〃 〃 〃 〃	統括診療部長	肱岡 泰三
〃 〃 〃 〃	看護部長	池上 よしみ
〃 〃 〃 〃	企画課長	福谷 学
〃 〃 〃 〃	管理課長	刀祢 弘司
〃 〃 〃 〃	免疫異常疾患研究室長	大島 至郎
〃 〃 〃 〃	放射線科医長	津村 昌
〃 〃 〃 〃	副薬剤科長	石正 英良
〃 〃 〃 〃	主任臨床工学技士	中村 貴行

平成 21 年度倫理審査委員会名簿

構成員	官職・所属	氏名
委員長	副院長	田伏 克惇
副委員長	臨床研究部長	佐伯 行彦
外部委託委員	元日本リウマチ友の会大阪支部長	北野 嬋子
〃 〃 〃 〃 〃 〃	弁護士（弁護士法人淀屋橋・山上合同）	四宮 章夫
〃 〃 〃 〃 〃 〃	医師・弁護士（医療法人今心会）（中村・平井・田邊法律事務所）	田邊 昇
〃 〃 〃 〃 〃 〃	学校法人大阪滋慶学園特別顧問 元神戸薬科大学教授	林 信一
〃 〃 〃 〃 〃 〃	社会福祉法人 川上会 観心寺保育園長	渡辺 範子
内部委員	事務部長	池田 良一
〃 〃 〃 〃	統括診療部長	肱岡 泰三
〃 〃 〃 〃	看護部長	池上 よしみ
〃 〃 〃 〃	管理課長	刀祢 弘司

## Ⅱ. 各研究室の活動報告

### (1) 免疫異常研究室

室長 大島 至郎

#### 2009 年 研究室の活動報告

##### ① 基礎研究

##### 関節リウマチ(RA)における免疫グロブリンにおける糖鎖修飾の役割の解析

糖鎖による修飾は、発生過程や、癌化の過程で変化が認められることが知られている。RA においても血清 IgG の糖鎖のガラクトースの量の減少が報告されている (Nature, 1985)。これまでの研究から IgG の糖鎖異常は免疫原性に関わる可能性があり、さらに生理機能や炎症反応への関与が報告されており、エフェクター機能の発現にも重要な役割を果たしていることが明らかになってきたが、詳細な糖鎖構造の解析と病因への関与のメカニズムにまでふみこんだ報告はない。我々は共同研究者 大阪大学・近藤教授らの開発した糖鎖解析の手法により、活動性の RA 症例ではガラクトースを欠損した IgG が著増していることを確認した。これらのガラクトース欠損 IgG はフコースは有しており、バイセクティング N-アセチルグルコサミンを欠くものが多いことも明らかとなった。また診断未確定の関節炎症例で 2 年以内に関節リウマチの診断を充たした症例では初診時にすでにガラクトースを欠損した IgG が著増していた。

さらに、診断未確定の関節炎で 2 年後の転帰を検討し、その診断能について検討した。その結果ガラクトース欠損 IgG は抗 CCP 抗体に比して感度、ROC 曲線において優れており、特異度において劣っていた。また CCP 抗体とガラクトース欠損 IgG を組み合わせることによって診断率は 97%を達成した。

これらのことは、ガラクトース欠損 IgG は関節リウマチの早期診断のマーカーとして非常に有用なものであることを示唆している。本研究では最新の糖鎖解析の手法により RA 症例の血清中の IgG の糖鎖構造を詳細に解析し、これらと臨床データ、治療との関連を検討することによって RA における糖鎖の役割の解明、診断、予後評価につなげようと考えている。さらには糖鎖異常を引き起こすメカニズムを分子レベルで明らかにすることにより RA の発症のメカニズムを解明できれば、RA の根本的な治療につながるものと考えられる。



腸内細菌叢の解析において、近年菌種遺伝子を直接ターゲットにした RTPCR 法を用いた新たな解析法が確立した。本研究により、RA 患者の腸内細菌叢プロファイルが健常人と比べて変化していることが明らかになれば、RA 患者の腸内細菌叢を人為的に健常人と同じプロファイルに是正する治療戦略の可能性が示される。そして、この成果を基に安価で「ヒトにやさしい」新規の治療薬を開発することが期待できる。

### 抗 CCP 抗体高値陽性の診断未確定多関節炎 (UA) 患者における早期治療介入の関節リウマチ (RA) 発症抑止に関する前向き研究

診断不確定の多関節炎 (UA) 症例において抗 CCP 抗体が関節リウマチ (RA) の発症予測に有用であることが報告されている。また RA において早期治療介入がその予後改善に寄与することが示唆されている。本研究では、抗 CCP 抗体高値陽性 UA 患者を対象とし、(1) MTX を用いた RA に対する標準的治療群、(2) MTX 以外の対症療法を行なう群の 2 群において、一年間経過観察し、主項目として RA の発症、副項目として骨破壊、骨塩量の変化および有害事象の発現を検討する。本研究では早期治療介入による RA の発症の抑止に関してその有効性と安全性を検討している。

### 全身性エリテマトーデス (SLE) の発現遺伝子解析による予後予測因子の同定

全身性エリテマトーデス (SLE) は多彩な病態を示すがその予後予測は困難であり、それぞれの病態に関連する因子も明らかになっていない。我々は大阪大学微生物病研究所・野島教授との共同研究により、多段差引法 (段階的サブトラクション) によって SLE 患者における特異的遺伝子発現を報告した (ishii et al., 2005)。本研究では、この結果をふまえて独自の SLE-DNA チップを作成した。現在未治療の SLE 患者を対象とし、治療前後に末梢血単核球の mRNA の発現パターンの変化を調べることにより SLE の予後予測因子および種々の病態に関連する因子を同定することを目的に研究を進めている。

### 関節リウマチの予後 (関節破壊) 予測因子の研究

国立病院機構政策医療共同臨床研究 政策医療「免疫異常」

関節リウマチの臨床上的最大の問題点は関節破壊であり、治療のコンセンサスは早期に病態に応じた適切な治療をすることである。そのためには早期に予後 (関節破壊) を予測することが必要となるが、残念ながら現在有効な予後/関節破壊のマーカーに乏しいため、治療法の選択に難渋することがしばしばある。

これまで我々は、オステオポンチン (osteopontin)、ガレクチン 3 (Gal-3) に注目し、その骨破壊への関与について報告してきた。これらの分子は有効な関節破壊マーカーとなる可能性があると考えられ、現在 iR-net を活用した国立病院機構 28 施設間の共同研究で前向き試験を行っている。さらにこれらは治療のターゲットとなりうる分子でもあり、骨破壊における役割について研究を進めている。

## (2) 循環器疾患研究室

室長 橋川 一雄

平成 21 年度循環器疾患研究室研究活動の総括

### I. 心臓部門（第一循環器科）

#### <臨床研究活動>

英文原著論文 4 編、和文 2 編、4 編投稿中。

国際学会 ACC2、国内学会 26（日循 1、心臓病 9、CVIT5、心エコー図 2、心不全 3、他 6）、  
地方会・研究会 13。

#### (1) 個別研究

平成 21 年度の個別研究のテーマは心臓カテーテル、心エコー、冠動脈 MDCT の 3 つのテーマに大別されその分野は多岐にわたる。主な発表内容を以下に列挙する。

##### 心臓カテーテル部門

1. 非保護左冠動脈主幹部分岐部病変に対する Culotte Stent の初期成績
2. 右冠動脈入口部病変に対する DES を用いた経皮的冠動脈形成術の初期成績
3. 三枝病変に対する PCI での完全血行再建の臨床成績
4. ステント内再狭窄に対する薬剤溶出性ステントの臨床成績
5. 冠動脈局所のオステオポンチンレベル -急性冠症候群例における検討-

##### 心エコー部門

6. 心筋 strain rate を用いた心房収縮伝導の評価 -発作性心房細動例における検討-
7. 貧血が正常高齢者の左室拡張能に与える影響についての検討
8. 心房細動患者の心尖部 rotation の変化

##### 冠動脈 MDCT 部門

9. 64 列 MDCT による overlapped または Culotte Stenting 後のステント内再狭窄の評価
10. DES 留置後再狭窄の新しいメカニズム：慢性リコイルについて <64 列 MDCT を用いた Culotte Stenting 後の経時的観察>
11. スタチンによる冠動脈プラークの退縮 <64 列 MDCT を用いての 6 症例の経時的観察>
12. 再灌流した急性心筋梗塞患者の 64 列マルチスライス CT を用いた心機能評価：経胸壁心エコー及び心電図同期心筋 SPECT との比較

## (2) 共同研究

主要対象疾患は冠動脈疾患、心房細動の他、肺塞栓症などで平成 21 年度に行った共同研究は以下のとおりである。

1. OACIS (大阪急性冠症候群登録研究) : 大阪大学循環器内科学講座が主体となって、関連施設における急性心筋梗塞入院症例の登録を行い、心筋梗塞患者のデータベースを構築する疫学研究である。平成 21 年、当センターからは 68 例を登録した。
2. J-NHOAF 研究 (EBM 推進のための大規模研究「心房細動による心原性脳塞栓予防における抗血栓療法の実態調査」) : 全国の国立病院機構において非弁膜症性心房細動患者における基礎疾患・病型・リスク・病院・医師専門科別による抗凝固薬の使用実態を調査し、投薬による血栓塞栓症・出血性合併症・予後について前向きに調査することを目的としている。
3. 深部静脈血栓症および肺塞栓症に対する悉皆登録研究 : 全国の国立病院機構における肺塞栓症、深部静脈血栓症に対する悉皆登録研究を行い日本の現状を正確に把握し今後の予防、治療に役立てることを目的としている。
4. 急性心筋梗塞地域連携パスの標準化と有効性の検討 : 全国の国立病院機構において急性心筋梗塞の慢性期治療を病診連携で行う際に地域連携パス (地域連携医 (かかりつけ医) への情報提供フォーム) を各参加施設で導入した場合の慢性期治療方針に対する遵守度および治療目標達成度の実態調査を行うことを目的としている。
5. PHAS-J2 (学会ガイドラインに基づく原発性アルドステロン症の診断と効果的な薬物治療法の確立) : 全国の国立病院機構において高血圧/内分泌ガイドライン 2009 に準拠し原発性アルドステロン症の診断を行い非手術例での標準的薬物治療の確立を目的としている。
6. 冠動脈疾患を合併した脂質異常症における血清 LDL-コレステロール値管理目標値設定の検討 : 全国の国立病院機構において安定冠動脈疾患を有する脂質異常症患者を対象とし、LDL-C を強力に低下させる治療法 (LDL-C<70mg/dL) と従来の治療法 (LDL-C<100mg/dL) の 2 群での前向きランダム化比較臨床試験により、重大脳心血管合併症を追跡調査し、強力な脂質低下療法が重大脳心血管合併症抑制の発生について優位性があるか否か検討することを目的としている。
7. 心房細動例における心原性塞栓症予防のためのワルファリン療法の実態と至適 PT-INR 治療域の確立に関する多施設共同研究 (J-RHYTHM Registry) : 日本心電学会が主導、我が国の心房細動患者におけるワルファリンによる抗凝固療法の実態を明らかにするとともに、その至適治療域を明らかにし、患者背景に応じた標準的ワルファリン療法の確立および現治療指針をより適切なものにするを目的としている。

### (3) 治験

1. 発症後間もない急性冠症候群（ACS）患者におけるリバロキサバンの有効性および安全性を検討する無作為二重盲検プラセボ対照イベント主導型多施設共同治験
2. 標準治療を受けている急性冠症候群患者を対照とする APIXABAN 24 週間投与時の安全性および有効性評価を目的としたプラセボ対照、多施設共同、無作為化二重盲検試験
3. TAK-442 の急性冠症候群患者を対象とした第 II 相用量設定試験

## II. 脳循環部門（第二循環器科）

当部門では、前年度より継続の共同研究とともに画像診断を中心とする新しい診断技術導入を行った。

### 1) 共同研究

1. 平成 19 年度厚生労働科学研究費補助金医療技術実用化総合研究事業（H19-トランス一般-001）SPECT 検査の精度向上と施設間誤差のない標準的画像診断法の確立（主任研究者 飯田秀博）（平成 19 年度より継続）
2. 平成 21 年度循環器病研究委託費事業（公 19-3）SPECT を用いた脳血管病変診断法の標準化と臨床的評価（主任研究者 飯田秀博）（平成 19 年度より継続）
3. 平成 16 年度厚生労働科学研究費補助金循環器疾患等総合研究事業（H16-循環器(生習)-003）脳血管疾患の再発に対する高脂血症治療薬 HMG-CoA 還元酵素阻害薬の予防効果に関する研究 J-STARS, J-STARS-L（主任研究者 松本昌泰）（平成 16 年度より継続）
4. 平成 21 年度厚生労働科学研究補助金 健康安全確保総合研究分野 「診断用放射性医薬品に関する臨床評価ガイドライン」の作成に関する研究（主任研究者 久保 敦司）
5. J-COSMIC (Japan Cooperative SPECT Study on Assessment of Mild Impairment of Cognitive Function : MCI を対象としたアルツハイマー型痴呆の早期診断に関する研究) MCI を対象にした神経心理検査と脳血流 SPECT の早期診断に関する研究。3 年間のフォローアップ。全国 30 施設が参加。2003 年 8 月 8 日登録終了し、現在 follow up 中である。主任研究者 米倉義晴（放射線医学総合研究所理事長）。当施設からは橋川が SPECT 画像診断委員として参加している。

### 2) 個別研究

1. 3D-SSP : SPECT を正常者のデータベースと比較することにより客観的評価を可能とする。I-123 ヨードアンフェタミンを用いた脳血流 SPECT 検査に応用し、脳血管障害や認知症の診断に用いている。
2. 画像の重ね合わせ： 解剖画像である MRI と脳機能画像である SPECT を合わせることによって、詳細な病態解明を可能とする。脳血管障害、アルツハイマー病を代表とする認

知症、てんかんの焦点診断などに応用を行っている。

3. QSPECT：国立循環器病センター研究所放射線医学部 飯田秀博博士等が考案した、SPECTにて安静時およびDiamox 負荷後の脳血流を1回の検査にて定量測定する方法である。平成19年12月より当院でも導入し、現在臨床応用を行っている。

4. CT perfusion：造影剤を使いdynamic CT 撮像によって局所吸収値の時間変化から脳血流量を推定する方法。脳梗塞急性期における脳循環評価法として使われている。CT 血管撮影と続けて施行することによって、血管情報と循環情報を得ることができる。撮像の可能性は確認した。

5. 頸動脈ステント留置術（CAS）前後の脳循環動態の変化： CAS 導入後、CAS 前および2日後における脳循環動態を測定し、過灌流現象の可能性・有無および予後予測への有用性を検討している。

### 3) 著作・学会発表など

#### 3-1 論文・著作

1. 橋川一雄. 脳 SPECT による脳機能および機能局在に関する研究. 細胞 41(4), 140-142, 2009.
2. 日本脳神経核医学研究会 EBM ガイドライン作成委員会 (橋川一雄、石井一成、松田博史、桑原康雄、その他) エビデンスに基づく脳神経核医学検査ガイドライン. 核医学第 46 巻第 4 号, 1-37.
3. Iseki K, Hanakawa T, Hashikawa K, Tomimoto H, Nankaku M, Yamauchi H, Hallett, M, Fukuyama H. Gait disturbance associated with white matter changes: a gait analysis and blood flow study. Neuroimage. 2010 Jan 15;49(2):1659-66. Epub 2009, Sep 19.
4. Iseki K, Ikeda A, Kihara T, Kawamoto Y, Mezaki T, Hanakawa T, Hashikawa K, Fukuyama H, Shibasaki H. Impairment of the cortical GABAergic inhibitory system in catatonic stupor: a case report with neuroimaging. Epileptic Disord. 2009 Jun;11(2):126-31. Epub 2009 May 29.
5. Nishi H, Sawamoto N, Namiki C, Yoshida H, Dinh HD, Ishizu K, Hashikawa K, Fukuyama H. Correlation between cognitive deficits and glucose hypometabolism in mild cognitive impairment. J Neuroimaging. 2010 Jan;20(1):29-36.

#### 3-2 学会発表

なし

### (3) がん研究室

室長 肱岡 泰三

平成 21 年度臨床研究報告書

#### 【胃癌】

胃癌は病期により治療法や根治度が大きく異なる疾患である。そのため、治療前の正確な進行度診断に基づいた治療方針の決定が重要である。当院では消化器内科医・外科医・病理医が連携し、ガイドラインに則った治療を行っている。

早期胃癌に対しては腹腔鏡手術も積極的に導入している。現在、早期胃癌に対して内視鏡的粘膜一括切除術（ESD）を消化器科では実施しているが、その長期予後につき検討中である。また、外科では、胃癌術後患者の QOL の向上に貢献することを目的として胃癌に対する幽門側胃切除術後における Billroth-I 法 vs Roux-en Y 法の再建法の比較検討試験を開始した。

#### 【大腸癌】

進行下部直腸癌に対する外科治療では、その術式により、肛門機能の低下・欠損や性功能障害、排尿障害が出現し術後の患者 QOL を損なうことがしばしば見られる。そこで、肛門機能温存や予後の改善を目的に、進行下部直腸癌に対して術前に化学放射線治療を行っている。その治療効果、至適照射線量、化学療法薬剤の選択、術後経過に与える影響等について検討中である。

大腸癌術後腸閉塞のリスク因子の解析に関する研究を開始した。腸閉塞は大腸癌術後合併症の最も多い合併症の一つである。術後早期に発症すれば、入院期間の延長につながり、術後一定期間が経過した後も発症し、経鼻チューブの挿入や再手術が必要になることもある。腸閉塞の原因は患者の既往症、手術術式、術後経過など様々な要因が考えられるが明らかな原因ははっきりしていない。本研究ではその原因を究明することを目的としている。

#### 【肝細胞癌】

消化器科では、初発肝細胞癌に対しラジオ波焼灼療法を用いて局所的根治治療を実施しているが、その予後と再発について引き続き検討を行っている。これまで初発肝細胞癌に対するラジオ波焼灼療法の異所再発関連する因子の検討をこれまで行っており、血小板数が大きく関連していることを報告している。今回、平成 13 年 5 月から平成 21 年 3 月までの初発肝細胞癌でラジオ波焼灼術にて根治術となった 124 例を対象にその予後に関連する因子検討を行い、消化器科 田中が第 1 回南河内消化器病懇話会 平成 21 年 8 月 29 日で報

告した。異所再発に関わる因子と同様にラジオ波焼灼術後肝癌の予後（生存率）には血小板数  $10 \text{ 万}/\mu\text{l}$  が関わり、さらには PIVKAI1  $40 \text{ mAU}/\text{ml}$  が予後に大きな影響を与えることが明らかとした。この結果をさらに検討し、平成 22 年度の第 46 回日本肝臓学会総会に発表予定である。

インターフェロン併用 5-FU 動注療法（FAIT 療法）により外科的切除しえた胆管腫瘍栓を伴う再発肝細胞癌の一例を、第 45 回日本肝癌研究会 平成 21 年 7 月に発表した。また、ソラフェニブ投与後に下部消化管出血をきたした一例を、第 84 回日本消化器内視鏡学会近畿地方会 平成 22 年 3 月に発表した。

### 【膵・胆道癌】

非切除胆道癌には、標準的化学療法が確立されていない。消化器科では、gemcitabine を中心とする化学療法の有用性を検討した。第 95 回日本消化器病学会総会 平成 21 年 5 月において発表した。平成 16 年 4 月から平成 20 年 10 月までに化学療法を行った非切除胆道癌 Stage III 以上の 18 例を対象として、gemcitabine の標準的療法  $1000 \text{ mg}/\text{m}^2$  3 投 1 休を中心とする化学療法は、腫瘍縮小効果は得られなかったが、生存期間延長に寄与することがわかりその有用性を示した。一方、非切除膵胆道癌に対する胆管ステント留置術に関する検討を、第 45 回日本胆道学会学術集会 平成 21 年 9 月で発表した。平成 16 年 4 月から 21 年 5 月までの膵胆道癌による胆道狭窄に対して胆管ステントを留置した 74 例（Plastic stent (PS) 32 例、Metallic stent (MS) 42 例）に対して、胆道狭窄部位、化学療法の有無によるステント開存期間の影響を検討した。ステント開存期間はそれぞれ PS108 日、MS264 日で、留置部位に関わらず MS の開存期間が長いことが明らかとなった。しかし、PS および MS のそれぞれでは、閉塞部位、化学療法の有無については、ステント開存期間延長には有意な差は生じなかった。以上の 2 つの発表からは、gemcitabine の生存期間への有用性があるにもかかわらず PS、MS による開存期間延長には化学療法の有無には影響されなかった結果となったため、生存に対してより関与するのが、胆道癌の first line として広く用いられている gemcitabine か、ステントの種類によるのかについてのさらなる解析が必要と考えられた。

症例報告として、無症候性多発グルカゴノーマの一例を、第 95 回日本消化器病学会総会 平成 21 年 5 月に報告した。

#### (4) 骨・運動器疾患研究室

室長 齋藤 正伸

平成21年度研究報告；骨運動器

### 3 次元動作解析装置を用いた脊椎上肢機能評価

光学式三次元位置計測システムを用いて日常生活動作に於ける上肢の動きの解析を関節リウマチ患者に行った。昨年度までの研究で、健常者と同様に関節リウマチ患者においては、摂食、洗顔、食事動作などの日常生活動作は頸椎と上肢が密接に関与し、手術によって肘関節の可動域が改善されると、頸椎を含めて他の関節が要求される可動域は小さくて済むことがわかった。今回の研究では、摂食、洗顔、食事動作以外の日常生活動作に関して、その動作を達成するためには上肢全体として各関節にどのような動きが必要なかを調べた。その結果、関節リウマチ患者では肩の外旋、伸展制限のある者は、上肢を体幹の後ろに回して手をおしりに届かせることが困難であることがわかった。今後、関節リウマチのように多関節障害がある患者において、日常生活動作の種類を変えて同様の評価を行う予定である。そして、関節リウマチのように多関節障害がある場合、障害されている動作を改善するために、どの関節の可動域をどの程度改善すれば良いかを、予見することが可能かどうかを検証したい。

### 生物学的製剤投与が関節リウマチ患者の頸椎病変に与える影響

生物学的製剤使用以前の RA 頸椎病変の自然経過は、経過観察期間平均 10.2 年で有病率が 29%から 57%、あるいは平均 7.8 年で有病率が 49%から 78%と、大きな増加が報告されている。今回、生物学的製剤の強力な抗炎症作用によって RA 患者頸椎病変の自然経過がどのように変化したかを評価した。

Infliximab導入後2年以上、平均3.8年経過観察した関節リウマチ患者21例を対象とした。全例、導入前から経時的に頸椎X線撮影を行い、環軸椎前方亜脱臼(AAS)・環軸椎垂直亜脱臼(VS)・軸椎下垂脱臼(SS)の発症・進行の評価を行った。

生物学的製剤導入時の画像評価では RA 頸椎病変を認めない(none 群)11 例、AAS 群 5 例、VS 群 5 例に分類された。頸椎病変の有病率は導入前 21 例中 10 例 (48%) から最終調査時 11 例 (52%) とわずかな増加にとどまったが、導入前すでに頸椎病変を有する症例では、10 例中 6 例 (60%) と高率に病変の進行を認めた。症例を画像的 RA 頸椎病変の進行を認めない非進行群 14 例と進行を認めた進行群 7 例にわけ、各種因子の単変量・多変量解析を行った結果、既存の RA 頸椎病変の有無のみが唯一統計学的に有意な危険因子であった。

頸椎の靭帯・関節構造が温存され頸椎病変を認めない時期に生物学的製剤を導入すれば頸椎病変の出現を抑制できる可能性が示された。

### 腰椎椎体間固定術後の隣接椎間障害に関する研究

腰椎椎体間固定術は不安定性を有する腰椎変性疾患において、除圧術単独と比較して優れた長期成績が報告されている。一方その長期経過において、固定術を施行した上下の椎間での力学的ストレスの変化が主因とされる隣接椎間障害を高頻度に来たし、臨床成績悪化原因となることが判明してきた。我々はこの隣接椎間障害の新たな危険因子として、「固定椎間の持ち上げ」に注目している。

平成 16 年から腰椎変性疾患（主として腰椎すべり症）に対し腰椎椎体間固定術を施行し術後 2 年以上経過観察可能であった患者を対象とした。単椎間固定における隣接椎間障害に対する「固定椎間持ち上げ」の隣接椎間障害への影響を検討し、椎間の過度の持ち上げが隣接椎間障害の危険因子であることを既に報告している。今回の検討は、対象を腰椎すべり症、椎間板ヘルニアに拡大、また固定椎間数は 2 椎間も含めて、多変量解析を用いて解析する予定である。

### 骨折整復ロボットの開発および臨床使用に向けての基盤的研究

昨年度は、直達牽引式の骨折整復支援装置の試作機を製作した。この装置は、並進 3 自由度と回転 3 自由度の 6 自由度を有し、入力した運動方向および力の大きさの通りに直達式に保持した下肢の牽引・回旋・内外転・屈伸を行ない、骨折整復を支援することができる。

今年度は、この骨折整復支援装置を術前計画に沿って実際に作動させ骨折整復を能動的に行なわせるためのナビゲーションシステムの開発をさらに進め、より実用的なものにした。ナビゲーションシステムにおいては、骨どうしの干渉および筋の伸縮を考慮して三次元的な整復経路を自動的に計算する術前計画システムの開発を進めた。実際の状況に近い下肢筋骨格モデルを用いた模型実験を進めていった。実験では、この骨折整復支援装置およびナビゲーションシステムを用いて、術前計画通りの整復操作を ますまずの精度および速度で行なうことができた。

次年度は、ナビゲーションシステムの開発をさらに進めること、および、動物の死体を用いた実験を検討している。

## (5) 再生医療研究室

室長 幸原 晴彦

### 再生医療研究室平成 21 年度活動報告

#### 生活習慣病地域医療体制構築

##### 1) 臨床研究活動

厚労省が 10 年前に描いた地域医療連携体制を完成した。日常的に逆紹介状態が継続され、また糖尿病クリティカルパスも数百人全員に配布している。ほとんどの患者はかかりつけ医で診療され、当院診療間隔は通常 6 ヶ月であるが、重症度に応じて最短 1 ヶ月の患者もいる。外来患者数は糖尿病他内分泌代謝疾患を含め年間 1 5 0 0 人前後であり、当院では最大数である。近隣の病院と比較して、それほど遜色ない年間外来患者数である。1 日予約外来患者数は最高 1 日 3 0 人どまりである。かかりつけ医よりの紹介や、飛び入りは許容しているので、外来診療時間は予定より若干長くなる。患者一人当たりの診療時間が短くなったということはなく、ほとんどが合併症精査と患者への説明に費やされ、患者の満足度も高い。このような体系を確立しながら、生活習慣病患者の側面を捉えてきた。

#### 体系構築のための心理学的的方法論

治療目標を循環診療による生活習慣病強化治療に設定した。これに対する治療アプローチとして、1) 1 ヶ月に 1 度の診療所受診、2) 診療所での HbA1c、血糖検査、3) 診察時検査結果の当院持参、4) 当院での合併症精査を指示した。これら一連の治療行為を通して、各自セルフモニタリングを行なってもらい、当院診察時に、A) H b A 1 c に基づいた体重、食事、生活習慣の検討、B) 当院での合併症精査結果の検討、C) 診療過程における問題点の検討 に関して診察時に各患者の認知に介入した。なお認知介入と並行して、1) - 4) の治療アプローチ項目を条件付けとし、患者が条件付けどおり行動できたときは、血液検査の結果如何に関わらず、その行為を褒め、1) 診療所受診で糖尿病の認識強化が非常に重要であったことを説明し、2) 3) 診療所、当院の HbA1c の測定値を総合して、前回受診からの状態を解説した。また 4) に対して、データが良ければ当院診療期間の延長をおこなう負の強化や、悪化しておれば、生活習慣指導、診療日間短縮、他科(腎臓内科、循環器科、眼科)診察による正の強化を行う行動療法(オペラント強化)を並行して行った。

#### 新聞

1) 河内長野の応戦 幸原晴彦 基礎方法論・律動的病診連携とは、府医ニュース 平成 21 年 4 月 22 日

- 2) 河内長野の応戦 幸原晴彦 地域医療支援病院と医師会、府医ニュース 平成21年5月20日
- 3) 河内長野の応戦 幸原晴彦 患者の不安、府医ニュース 平成21年5月6日
- 4) 河内長野の応戦 幸原晴彦 合気道・勤務医のメリット、府医ニュース 平成21年5月27日
- 5) 河内長野の応戦 幸原晴彦 社会的ジレンマ、府医ニュース 平成21年6月3日
- 6) 河内長野の応戦 幸原晴彦 合併症精査・クリティカルパス、府医ニュース 平成21年6月12日
- 7) 河内長野の応戦 幸原晴彦 逆紹介の意味、府医ニュース 平成21年6月24日
- 8) 河内長野の応戦 幸原晴彦 駆け引き、府医ニュース 平成21年7月1日
- 10) 河内長野の応戦 幸原晴彦 ファイバースコープ効果、府医ニュース 平成21年7月15日
- 9) 河内長野の応戦 幸原晴彦 律動的病診連携と総合医制度・診療所と病院・今後の医療提供体制、府医ニュース 平成21年7月22日

#### 対談

- 1) HART in Osaka 幸原晴彦、細井雅之、朴孝憲、武呂誠司、下村伊一郎、糖尿病の地域連携と合併症予防 平成21年9月14日
- 2) かかりつけ医を持とう！ 幸原晴彦 米延策雄 地域で目指す医療の理想は患者の安心感を重視したシームレスは医療 ご近所ドクターNET 平成21年8月31日

#### 論文

幸原晴彦、藤島裕也、北村哲宏、平尾利恵子、山口竜司、松尾正氣、中林才治、村田貞史、笹井智令、山片重法 都市規模で展開した認知行動療法・行動療法的アプローチの併用による生活習慣病地域連携の試み 大阪医学 Vol. 42 No. 2 p44-49 Oct. 2009

### Ⅲ. 奨励研究課題報告

#### (1) 社会資源としての SHG の有用性

##### —患者会・患者サロンを中心とした半構造的面接調査—

地域医療連携室 萬谷和広

###### [目的]

本研究では、SHG が、どのような種別の心理社会的ニーズを充足させられるかといった SHG の社会資源としての有用性を明らかにすることを目的とした。

###### [方法]

心理社会的ニーズ、SHG の特徴の概念を整理し、体系化させる。その内容をベースに、SHG によって充足できるニーズを明らかにできる質問項目を構造的に設定する。その上で、半構造的インタビューを実施し、調査結果を分析するといった方法を実施する。また、調査結果を資料化させ MSW の相談支援に援用する。

###### [結論・考察]

調査は、大阪府下のがん患者会 25 団体に対して実施した。全ての患者会に対して、患者会概要、活動地域、参加条件、対象癌腫、会員数、会費、参加方法、活動内容とその活動で充足できるニーズ、その他について詳細な情報収集ができた。

なお、活動内容が同様であっても、実施する患者会が異なれば、充足できるニーズの種別や質的内容の違いを生じさせる特性が見いだされた。各患者会の特性を把握するには、以下の 4 点の側面から考察ができる。

###### ① アクセス条件

患者会との関係を如何に持つかは、活動地域、参加対象者、参加方法の側面から考察できる。

###### ② 活動目的、方針

患者会の活動目的、方法の内実は、設立時期とその時期の社会的背景によって考察できる。

###### ③ 活動内容の特性

活動内容により充足できるニーズの質的内容は、活動のアプローチ対象と専門職の介入程度の 2 側面より考察できる。

###### ④ 各患者会同士の関係性

患者会同士は横のつながりをもち一定のグループを形成しており、グループ間では共通の目的や理念を持つ。患者会の方向性は、グループの活動内容からも考察できる。

以上 4 点の考察をもとに患者会の特性を把握し、それをニーズ充足に援用することで、SHG は有用な社会資源となりうる。

## (2) 当院の退院支援システムの構築

### ～チームで取り組む退院支援体制の整備に向けた取り組み～

大阪南医療センター看護部 川上浩美・岩瀬嘉壽子・円城寺若奈・大澤真琴・田村 彰子

#### 【目的】

急性期病院は、在院日数が短縮されている中、がんの終末期や慢性疾患など医療ニーズの高い患者や介護が必要な高齢者等の在宅療養への移行困難事例が増加し、病院という「医療の場」から在宅という「生活の場」への退院支援の充実が求められている。

そこで今回、患者や家族が適切な時期に退院し、円滑に 次の療養場所へ移行できるように看護が強化できる。

#### 【実施及び結果】

9月から1月にかけて診療報酬、介護保険、退院支援、病棟看護師が行う退院支援で在宅酸素、訪問看護師を講師に招き訪問看護の仕組みと利用の実際の勉強会を実施した。

勉強会の結果、勉強会の参加率から、退院支援に対する問題意識を持っている病棟の格差が大きいことが分かった。退院支援について必要性は理解出来ているが計画の立案、アセスメントやカンファレンスの実施については相談すればできるという回答が多かった。また、年数別で時間内にして欲しいという意見があった。

勉強会のその後の状態については、勉強会に出席している病棟は退院支援に対して準備が出来るようになってきている。また、今までは退院支援においてMSWにすべてをまかせる傾向にあったが、勉強会後は看護師の役割をはたそうとする姿勢に変わってきた。退院支援をすることで患者や家族から感謝され、退院後の生活が順調にいつていることが地域連携室から情報が入り、看護師が達成感を感じるようになってきている。

#### 【まとめ】

自主参加型では退院支援に対する取り組みや退院支援の意識の向上には限界がある。今後の課題として1、リンクナースの配置の検討と育成2、退院支援の教育プログラムの作成の検討など病院全体として考える必要がある。

### (3) オーダリング機能を利用したシステムでの抗癌剤用量の是正の試み

国立病院機構 大阪南医療センター 薬剤科<sup>1)</sup>、医療情報管理室<sup>2)</sup> 外科<sup>3)</sup>  
○森本茂文<sup>1)</sup>、香川邦彦<sup>2)</sup>、藤井加容子<sup>1)</sup>、北村良雄<sup>1)</sup>、田伏克惇<sup>3)</sup>

【目的】 当院では6年前より診療 DWH(Data Ware House) を導入しており、薬剤科での DWH 使用は、薬剤の集計・統計処理が主である。しかし DWH に保存されている膨大な診療データを効率よく管理し利用する環境は全国的にも少ない。そこで臨床に還元できるシステムの構築と発展の可能性について報告する。

【方法】 ①腎クリアチニンクリアランスを考慮した S-1 適正使用の推進のため、血清クレアチニン値より Ccr を算出し、Ccr を基準に投与量の減量度合を抽出できるシステムとした。②オキサリプラチンの標準用量への是正のため FOLFOX 療法のオキサリプラチン用量が 85mg/m<sup>2</sup> の 90%以下の用量の患者を抽出できるシステムとした。

【結果】 ①60 例中投与不可の Ccr30 以下に 1 例投与され、推奨量の半量が投与されていた。血中濃度測定の結果、半量で推奨量と同等の最高血中濃度が観察され半減期の延長が認められた。②90%以下の用量であった医学的根拠のない減量の内、標準用量へ是正することで腫瘍マーカーの減少を認めた。

【考察】 ①S-1 療法において腎機能低下が著明な Ccr30 以下の症例は、薬剤師による管理が有用と示唆された。②FOLFOX 療法の現状が明らかとなったほか、標準用量への是正で効果の現れる患者が確認された。過剰量の用量チェックを重視する傾向にある近年、薬剤師は用量不足チェックにも貢献できると示唆された。集学的治療で癌化学療法が主流となる昨今、DWH を利用し膨大な情報を整理し抗癌剤の用量を是正することは、安全かつ効果を高める癌化学療法を可能にすると考えられた。

#### (4) 生物学的製剤投与が関節リウマチ患者の頸椎病変に与える影響

整形外科 海渡貴司

生物学的製剤使用下での RA 頸椎病変の進行の評価および進行に影響を与える因子を同定することを目的とし研究を行った。生物学的製剤が2年以上継続投与され、頸椎 X 線が2年以上の間隔で撮影された 21 例(男 2 名、女 19 名)を対象とした。平均 RA 罹病期間 9.1 年、平均投与期間 4.3 年、平均撮影間隔 3.7 年であった。臨床評価は DAS-CRP、MMP-3 を用いた。画像評価は AAS: ADI>3mm, VS: Ranawat (R) 値<13mm, SS: 脊椎すべり>2mm と定義し、最終 X 線での ADI, 脊椎すべりの 2mm 以上の増加、R 値および Redlund-Johnell 値両者の 2mm 以上減少をそれぞれ AAS, SS, VS 進行ありとした。(結果) 薬剤変更率は 57%であった。DAS-CRP は 4.3 から 2.3 に有意な改善を認めた。初回評価時 RA 頸椎病変なし (none) 群 11 例、AAS 群 5 例、VS 群 5 例であったが、最終評価時 none 群→none 10 例、AAS 1 例、AAS 群→AAS 進行なし 2 例、AAS 進行 1 例、VS 進行 2 例、VS 群→VS 進行なし 2 例、VS 進行 2 例、VS 進行+SS 進行 1 例であった。非進行群と進行群の間に、罹病期間、DAS-CRP、MMP-3、X 線撮影間隔、薬剤変更の有無に有意差を認めなかった。none 群での進行は AAS・VS 群と比較し有意に少なかった (p=0.04)。有病率は、初回 48%から最終撮影時 52%と有意な増加を認めなかった。(考察) 有病率は 48%から 52%とわずかな増加にとどまったが、AS あるいは VS を認める群では高率に X 線上の進行を認めた。これは骨・靭帯性支持機構の破綻が生じた後には、炎症反応の沈静化が得られても頸椎病変が進行することを示している。逆に頸椎病変を認めない時期に生物製剤の導入することで頸椎病変の出現を低減できることも示された。

## (5) 南河内医療圏の在宅看護での栄養管理の実態調査

大阪南医療センター 栄養管理室<sup>1)</sup> 同第三内科医長<sup>2)</sup> 同栄養サポート室長<sup>3)</sup>  
田井中幸子<sup>1)</sup> 大池教子<sup>1)</sup> 谷川 清<sup>1)</sup> 幸原晴彦<sup>2)</sup> 濱 卓至<sup>3)</sup>

〔はじめに〕

厚生労働省では、質の高い医療が受けられる体制の構築を目指し、医療情報の提供による適切な医療選択の支援、医療機能の分化連携推進による切れ目のない医療の提供、在宅医療の充実による患者の生活の質の向上と医療の基盤整備を行っており、地域医療機関への栄養管理に関する情報提供の必要性が年々増してきている。

〔目的〕

在宅での胃瘻栄養管理に関する地域医療連携の充実を図るために、現状把握を目的としたアンケート調査を実施した。

〔方法〕

南河内二次医療圏で当センターと連携のあった訪問看護ステーション45施設に、電話で調査を行い、回答のあった31施設(69%)について集計を行った。

〔結果〕

訪問看護での胃瘻患者は訪問患者1408人中123人(9%)と少ない結果となった。胃瘻からの投与エネルギー量は1000～1200kcalの投与が最も多く、体重あたり30kcalに設定されていると予測される。投与した経腸栄養剤の85%は医薬品となり残りの15%が食品となった。これは自己負担額が医薬品と食品では1日千円程度の差があることとも関連があると思われる。栄養剤の固形化についても聞きとりを行ったが、医薬品で液体タイプの濃厚流動食を加工し投与する場合は62%となった。その他は食品である半固形濃厚流動食を使用しているとの回答があった。液体タイプの栄養剤の固形化の時期は当日朝にまとめて1日分作り置くが62%、前日に翌日分をまとめて作るが12%、適時につくるが13%で全体の約3/4が作り置くという結果となった。

〔結語・課題〕

胃瘻からの投与エネルギー量は1000～1200kcalが多く、患者個々の体格に応じた投与量は不明だった。栄養剤の固形化は事前に行っている事が多く、衛生管理面での検討が必要と考えられる。

今後の課題としては各個人での栄養投与方法、補給量の調査を行うとともに、退院時の情報提供を行っていききたい。

## (6) RA 患者の医療連携システムの構築

### ～かかりつけ医との医療連携強化に向けた取り組み～

地域医療連携室 岩瀬 嘉壽子

#### <背景・目的>

関節リウマチ (RA) は骨破壊を伴う関節炎を特徴とする原因不明の慢性炎症性疾患であり、わが国では約 70～100 万人の患者が存在する。早期に活動性の高い RA 患者を診断し先進医療を含めた治療導入をすること、さらに病態が安定した患者の長期の継続治療には QOL の向上の観点からも RA 専門医とかかりつけ医との医療連携が不可欠である。

当院は免疫疾患の地域基幹病院であり、外来で年間約 2 千人の診療を行い、入院では生物学的製剤治療の導入や合併症治療などの専門的治療を行っている。

このような現状から、専門施設のリウマチ専門医が早期診断、難治性病態の治療、先進医療を担い、計画的な治療や日常の診療をかかりつけ医が担うという医療機関の機能分化を明確にした RA 治療の医療連携システムの構築を目的に本研究に取り組んだ。

#### <結果>

1. かかりつけ医との交流の機会をもち医師の顔が見える連携をアピールすることで、連携医は増加した。
2. リウマチ患者の医療連携に対する考えや要望を把握し、医療連携の課題を明確にすることを目的に RA 友の会近畿支部の協力を得てアンケート調査を行った。(対象 834 名回収率 63.8%) 基幹病院へ通院する患者の医療連携の希望は、する・しない・わからないが、ほぼ 1/3。希望する患者は、診断・治療の導入は基幹病院で、日常の診察は診療所で行う医療連携の利点を理解していた。また希望しない患者は、専門医の診察が受けらなくなる、緊急時の心配など医療連携の仕組みがわからず、不安があることが解った。
3. 患者に対して、連携の啓蒙活動 (リウマチ教室・ポスター) 及び、QOL 向上の教育ツールを作成し、医療連携の説明時の生活指導等に活用した。
4. 平成 21 年 9 月以後でリウマチ医療連携の対象となる患者のうち、実際に 27 人に医療連携を開始した。

#### <今後の課題>

患者を中心とした地域リウマチ医療連携ネットワークを構築するために、今後さらに患者に対して連携に関する理解を深めるための啓蒙を行い、地域医療機関に対しては情報提供/交換を続けていくことによって連携の強化が必要である。これらのことによって、患者が安心して治療を継続し、当院が基幹病院としての機能が発揮できるようになり、地域のリウマチ医療の質の向上につながると考えられる。

## (7) 院内母乳育児支援システムを応用した地域助産師との母乳育児支援連携

西館 3 階 齋木博美 作田美穂 山本早紀 梯三恵 中村睦 宮崎成子  
医療情報技師 香川邦彦 経営企画係長 谷山多香子  
小児科医長 山本よしこ

### 〔目的〕

当院では、WHO/ユニセフの「母乳育児成功のための 10 か条」を遵守し母乳育児を支援している。行政では、保健師や助産師の個別訪問が実施されている。しかし当院とは違う見解で支援されることがあり、母親が戸惑っている現状がある。そこで、退院後も継続した母乳育児支援ができるよう、地域との連携を目指し活動した。

### 〔方法〕

- ① 院内母乳育児支援システムを利用し、児の体重増加や母乳率の問題点を提起。
- ② 地域助産師や子育て支援センターの保育士と情報交換。
- ③ ベビータイム（当市主催の育児支援サークル）に参加。
- ④ 赤ちゃん日記の改訂。
- ⑤ 母乳育児支援推進のための講演会を開催。
- ⑥ おっぱい通信の発行。

### 〔結果及び考察〕

- ①院内母乳育児支援システムにより、データが瞬時に見えることで、問題点へのより早い対応が可能となった。また統計や記録に時間を費やすことが減少し、スタッフが余裕を持って母子に関わることができるようになった。
- ②③地域支援者との交流で、当院の母乳育児支援の方針や母乳育児そのものが誤解されていることを知った。更に、当院と地域との支援の相違が母親を戸惑わせていることもわかり、支援の統一が急務であると考えた。
- ④当院の母乳育児支援の方針が伝わるよう、必要な情報を随所に記載し、おっぱい外来での記録欄と、地域助産師等の訪問の記録欄を設け、情報の共有が出来るようにした。
- ⑤母乳育児支援推進のための講演会には多数の地域支援者の参加を得た。当院の母乳育児支援の内容を知りたいという意見を得、地域支援者と同じ見解で支援を進めることができると考える。
- ⑥おっぱい通信を院内外に配布し（院外 400 施設）、母乳育児支援の情報発信と共に、当院の方針を地域支援者と共有することができた。

### 〔今後の課題〕

病院全体の取り組みが評価され、WHO/ユニセフより「赤ちゃんにやさしい病院（BFH）」の認定を受けた。今後更にイニシアチブをとって、地域と連携し母乳育児を支援していきたい。

## (8) 看護基礎教育における薬物療法看護の教授方法の検討

井下美恵・奥野美和・釘宮泰子・小濱薫・高木あおい  
竹川佳代子・中島孝子・林律子・松川有美・山田多加  
森下まり子・横川美代子

【目的】看護基礎教育において医療安全に関する教育が強く求められている。今回、学生の実習での薬物療法についての学習・実践内容を調査、学習の実態を明らかにし、今後の薬物と生活行動、看護との関連性を明確にした教授方法の検討につなげていく。

【方法】1)対象:当校H21年度3年生11名 2)調査方法:半構成的面接調査 3)面接方法:教員1名による15分程度の個人面接 4)面接内容:学習状況(事前学習の有無・内容、実習中の薬物についての学習内容、学習に使用した媒体)与薬経験の有無、薬物療法と生活援助の関係について 5)倫理的配慮:調査の目的・匿名性を説明し同意を得た。

【結果・考察】学習状況:事前学習は、事前情報があることができるが大半が事前情報はない。学習内容は全員が「作用・副作用」であり、学習には電子辞書を使用している。電子辞書以外に教科書を用いた学生は、「作用時間」「血中濃度」の学習を行っている。薬物療法と生活援助の関係:成人看護学実習では、関係を捉えている学生が多い。理由として対象からの訴えなど目に見える反応により、生活への影響が分かりやすい対象の特性がある。小児看護学実習では、捉えていない学生が多い。理由として実習内容が与薬方法に特化しており、対象が薬物の効果を自ら生活につなげて訴えないため、学生自身がつなげることに着目できていない。

以上より、今後学習をより効果的にするため 1)実習開始前に薬物療法に関する情報提供の実施 2)学習方法の指導 3)指導する側が対象の薬物療法を理解した意図的な関わり 4)実習前演習の工夫 5)薬物療法に関連する科目の教育内容と教授方法の検討が必要である。

## IV. 業績

(1) 論文 (太字アンダーラインは当院所属)

1) 原著論文

欧文

### 免疫異常の分野

1. **Kudo-Tanaka E**, Nakatsuka S, Hirano T, Kawai M, **Katada Y, Matsushita M, Ohshima S, Ishii M, Miyatake K**, Tanaka T, **Saeki Y**.  
A case of Mikulicz's disease with Th2-biased cytokine profile: Possible feature discriminable from Sjogren's syndrome.  
Mod Rheumtol 19(6):691-5,2009
2. Sato T, Inokuma S, Sagawa A, Matsuda T, Takemura T, Otsuka T, **Saeki Y**, Takeuchi T, Sawada T.  
Factors associated with fatal outcome of leflunomide-induced lung injury in Japanese patients with rheumatoid arthritis.  
Rheumatology 48(10):1265-8,2009
3. **Matsuno O, Ueno K, Hayama Y, Honda H, Yamane H, Saeki Y**.  
Deterioration of asthma in a patients with diffuse panbronchiolitis (DPB) after macrolide therapy.  
Journal of Asthma 47(4):486-8,2010
4. Wada Y, Tajiri M, **Ohshima S**.  
Quantitation of saccharide compositions of O-glycans by mass spectrometry of glycopeptides and its application to rheumatoid arthritis.  
J Proteome Res 5:9(3):1367-73,2010
5. Ohta K, Miyamoto T, Amagasaki T, Yamamoto M; 1304 Study Group.  
Oguri M, Tanaka H, Kikuchi H, Koba H, Kobayashi H, Tamura G, Sata M, Takeda H, Nakamura H, Saito T, Kurosawa M, Nakagawa N, Kaneko N, Ninomiya H, Takizawa H, Yamashita N, Nakano J, Adachi T, Majima T, Kobayashi N, Sano Y, Kokubu F, Kihara N, Horiuchi T, Niitsuma T, Nakamura S, Sugihara T, Aoki S, Takahashi H, Kubo K, Hayakawa H, Genma H, Yasuda K, Nakamura H, Tamura R, Shirai T, Ozawa M, Utoh T, Sakakibara H, Gonda H, Shimokata K, Nishiwaki K, Nakanishi K, Suzuki K, Yamamoto M, Taniguchi H, Fujimura M, Tanaka H, Tanaka T, Morimoto T, Hirata K, Inoue Y, Yasuba H, Nakata H, Tohda Y, **Katada Y**, Fukui M, Kato M, Kanehiro A, Souda R, Sato T, Kondo K, Yokoyama A, Kuwabara M, Hozawa S, Shiota Y, Haruta Y, Ikeda K, Takeyama H, Hamada H, Nakamura Y,

Yanagawa H, Shimoda T, Inoue H, Hayashi S, Matsuse H, Suyama N, Asai S, Kohrogi H.

Efficacy and safety of omalizumab in an Asian population with moderate-to-severe persistent asthma.

Respirology 14(8):1156-65,2009

6. **Matsuno O, Hayama Y, Honda H, Yamane H, Yamamoto S, Ueno K, Saeki Y.**

Crazy-paving sign in high-resolution computed tomography in parainfluenza virus pneumonia.

Radiography Volume 16, Issue 2, Pages 160-162,2009

7. Takenaka R, **Matsuno O**, Kitajima K, Ono E, Hiroshige S, Nishitake T, Miyazaki E, Kumamoto T.

The use of frequency scale for the symptoms of GERD in assessment of gastro-oesophageal reflex symptoms in asthma.

Allergol Immunopathol (Madr) 38(1):20-24,2010

8. **Matsuno O**, Ono E, Ueno T, Takenaka R, Nishitake T, Hiroshige S, Miyazaki E, Kumamoto T, Higuchi Y.

Increased serum ADAM8 concentration in patients with drug-induced eosinophilic pneumonia-ADAM8 expression depends on a allergen route of entry.

Respir Med 104(1):34-9,2010 Epub

#### **循環器疾患の分野**

9. Hasegawa T, Nakatani S, Kanzaki H, **Abe H**, Kitakaze M.

Heterogeneous onset of myocardial relaxation in subendocardial layers and subepicardial layers assessed with tissue strain imaging: comparison of normal and hypertrophied myocardium.

JACC Cardiovasc Imaging 2:701-8,2009

10. Geyer H, Caracciolo G, **Abe H**, Wilansky S, Carerji S, Gentile F, Nesser HJ, Khandheria B, Narula J, Sengupta P.

Assessment of myocardial mechanics using speckle tracking echocardiography: fundamentals and clinical applications.

J Am Soc Echocardiogr 23:351-69,2010

11. **Yasuoka Y, Sasaki T.**

Successful collapse vessel treatment with a syringe for thrombus-aspiration after the guidewire-induced coronary artery perforation.

Cardiovascular Revascularization Medicine 11:263.e1-263.e3,2010

12. Chandar S, Yeo L S, Leimena C, Tan J C, Xiao X-H, Nikolova-Krstevski V, Yasuoka Y, Gardiner-Garden M, Wu J, Kesteven S, Karlsdotter L, Natarajan S, Carlton A, Rainer S, Feneley M P, Fatkin D.  
Effects of Mechanical Stress and Carvedilol in Lamin A/C-Deficient Dilated Cardiomyopathy.  
Circulation Research 19;106(3):573-82,2010
13. Asada T, Takaya S, Takayama Y, Yamauchi H, Hashikawa K, Fukuyama H.  
Reversible Alcohol-related Dementia: A Five-year Follow-up Study Using FDG-PET and Neuropsychological Tests.  
Internal Medicine 49(4): 283-287,2010
14. Iseki K, Hanakawa T, Hashikawa K, Tomimoto H, Nankaku M, Yamauchi H, Hallett M, Fukuyama H.  
Gait disturbance associated with white matter changes: a gait analysis and blood flow study.  
Neuroimage, 49(2):1659-66, 2010
15. Iseki K, Ikeda A, Kihara T, Kawamoto Y, Mezaki T, Hanakawa T, Hashikawa K, Fukuyama H, Shibasaki H.  
Impairment of the cortical GABAergic inhibitory system in catatonic stupor: a case report with neuroimaging.  
Epileptic Disord, 11(2):126-31, 2009
16. Nishi H, Sawamoto N, Namiki C, Yoshida H, Thuy DH, Ishizu K, Hashikawa K, Fukuyama H.  
Correlation between Cognitive Deficits and Glucose Hypometabolism in Mild Cognitive Impairment.  
J Neuroimaging, 20:29-36, 2010

#### がん分野

17. Ichiro Mori, Takashi Ozaki, Katsuyoshi Tabuse, Hirotohi Ustunomiya, Emiko Taniguchi and Kennichi Kakudo.  
Microwave cell death: Molecular analysis using DNA electrophoresis, PCR amplification and TUNEL.  
Pathology International 59:294-299,2009
18. Shigeaki Inoue, Masaaki Endoh, Takashi Fukushima, Toshihiro Nakadate, Hideaki Andoh, Masayuki Ohsato, Takao Itoh, Shoichi Shida, Hiromichi Nakachi, Shuuichi Yoshihara, Syunnji Narumi, Kennichi Hakamada, Mutsuo Sasaki, Yuuichi Ebina,

Yutaka Umehara, Mitsuru Konn, Toshihito Seki, and **Katsuyoshi Tabuse**.

Long-term survival for 15years after percutaneous transhepatic cholangioscopic and X-ray image-guided microwave tissue coagulation (MTC) in a jaundiced man with non-resected bile duct carcinoma.

Journal of Microwave Surgery vol.27:115-119,2009

19. Yano K, Tamada Y, Yatsuhashi H, Komori A, Abiru S, Ito K, Masaki N, Mizokami M, Ishibashi H.

Japan National Hospital Acute Hepatitis Study Group.

Collaborators (38)

Ohara Y, Nishimura H, Mano Y, Kobayashi M, Saoshiro T, Saito A, Yagura M, Masaki N, Takahashi M, Hayashi S, Komatsu T, Watanabe Y, Nakamura Y, Morimoto H, Ohta H, Shimada M, Komeda T, **Hijioka T**, Kato M, Mita E, Kuzushita N, Yamamoto T, Yamashita H, Takezaki E, Kohno H, Kono H, Oda S, Hayashi T, Masumoto A, Satoh T, Nakamuta M, Muro T, Honda K, Sakai H, Sugi K, Koga M, Yano K, Tamada Y.

Dynamic epidemiology of acute viral hepatitis in Japan.

Intervirology 53(1):70-5,2010

20. Hiramatsu N, Oze T, Yakushijin T, Inoue Y, Igura T, Mochizuki K, Imanaka K, Kaneko A, Oshita M, Hagiwara H, Mita E, Nagase T, Ito T, Inui Y, **Hijioka T**, Katayama K, Tamura S, Yoshihara H, Imai Y, Kato M, Yoshida Y, Tatsumi T, Ohkawa K, Kiso S, Kanto T, Kasahara A, Takehara T, Hayashi N.

Ribavirin dose reduction raises relapse rate dose-dependently in genotype 1 patients with hepatitis C responding to pegylated interferon alpha-2b plus ribavirin.

J Viral Hepat Aug;16(8):586-94,2009

21. Oze T, Hiramatsu N, Yakushijin T, Kurokawa M, Igura T, Mochizuki K, Imanaka K, Yamada A, Oshita M, Hagiwara H, Mita E, Ito T, Inui Y, **Hijioka T**, Tamura S, Yoshihara H, Hayashi E, Inoue A, Imai Y, Kato M, Yoshida Y, Tatsumi T, Ohkawa K, Kiso S, Kanto T, Kasahara A, Takehara T, Hayashi N.

Pegylated interferon alpha-2b (Peg-IFN alpha-2b) affects early virologic response dose-dependently in patients with chronic hepatitis C genotype 1 during treatment with Peg-IFN alpha-2b plus ribavirin.

J Viral Hepat Aug;16(8):578-85,2009

22. Kurokawa M, Hiramatsu N, Oze T, Mochizuki K, Yakushijin T, Kurashige N, Inoue Y, Igura T, Imanaka K, Yamada A, Oshita M, Hagiwara H, Mita E, Ito T,

Inui Y, **Hijioka T**, Yoshihara H, Inoue A, Imai Y, Kato M, Kiso S, Kanto T, Takehara T, Kasahara A, Hayashi N.

Effect of interferon alpha-2b plus ribavirin therapy on incidence of hepatocellular carcinoma in patients with chronic hepatitis.

Hepatol Res May;39(5):432-8,2009

23. Kitahata Y, Yokoyama S, Takifuji K, Hotta T, Matsuda K, **Tominaga T**, Oku Y, Watanabe T, Ieda J, Yamaue H.

Hemangiopericytoma in the sacrococcygeal space: a case report.

J Med Case Reports 14;4:8,2010

24. Yokoyama S, Takifuji K, Hotta T, Matsuda K, **Tominaga T**, Oku Y, Nasu T, Tamura K, Ieda J, Yamaue H.

Moderately differentiated colorectal adenocarcinoma as a lymph node metastatic phenotype: comparison with well differentiated counterparts.

BMC Surg 8:10:8,2010

#### 骨・運動器疾患分野

25. Fukui M, Chiba K, Kawakami M, Kikuchi S, Konno S, Miyamoto M, Seichi A, Shimamura T, Shirado O, Taguchi T, Takahashi K, Takeshita K, Tani T, Toyama Y, **Yonenobu K**, Wada E, Tanaka T, Hirota Y.

JOA Back Pain Evaluation Questionnaire (JOABPEQ)/JOA Cervical Myelopathy Evaluation Questionnaire (JOACMEQ). The report on the development of revised versions.

Journal of Orthopaedic Science 14:348-365,2009

26. **Koyama T**, Sugano N, Nishii T, Miki H, Takao M, Sato Y, Yoshikawa H, Tamura S.

MRI-based surgical simulation of transtrochanteric rotational osteotomy for femoral head osteonecrosis.

J Orthop Res 27;4:447-451,2009

27. Hananouchi T, **Saito M, Koyama T, Hagio K**, Murase T, Sugano N, Yoshikawa H.

Tailor-made surgical guide based on rapid prototyping technique for cup insertion in total hip arthroplasty.

Int J Med Robotics Comput Assist Surg 5;2:164-169,2009

28. **Takashi Kaito**, Noboru Hosono, **Takahiro Makino**, Noriyoshi Kaneko, Masato Namekata, Takeshi Fuji

Postoperative displacement of hydroxyapatite spacers implanted during double-door laminoplasty.

- Journal of Neurosurgery: Spine 10:June:551-556,2009
29. Oda T, **Yonenobu K**, Fujimura Y, Ishii Y, Nakahara S, Matsunaga S, Shimizu T, Matsumoto M.  
Diagnostic validity of space available for the spinal cord at C1 level for cervical myelopathy in patients with rheumatoid arthritis.  
Spine 34:1395-8, 2009
30. Okada T, Iwasaki Y, Koyama T, Sugano N, Chen YW, **Yonenobu K**, Sato Y.  
Computer-assisted preoperative planning for reduction of proximal femoral fracture using 3-D-CT data.  
IEEE Trans Biomed Eng 56:749-59, 2009

#### 内科

31. Saji F, Shiizaki K, Shimada S, **Okada T**, Kunimoto K, Sakaguchi T, Hatamura I, Shigematsu T.  
Regulation of fibroblast growth factor 23 production in bone in uremic rats.  
Nephron Physiology 111(4):p59-66, 2009
32. **Okada T**, Sakaguchi T, Hatamura I, Saji F, Negi S, Otani H, Muragaki Y, Kawachi H, Shigematsu T.  
Tolvaptan, a selective oral vasopressin V2 receptor antagonist, ameliorates podocyte injury in puromycin aminonucleoside nephrotic rats. Clinical and Experimental Nephrology Oct;13(5):438-446, 2009
33. Mune S, Shibata M, Hatamura I, Saji F, **Okada T**, Maeda Y, Sakaguchi T, Negi S, Shigematsu T.  
Mechanism of phosphate-induced calcification in rat aortic tissue culture: possible involvement of Pit-1 and apoptosis.  
Clinical and Experimental Nephrology Dec;13(6):571-577, 2009

#### 小児科

34. **Hayashi G**, Inamura N, Kayatani F, Kawazu Y, Hamamichi Y.  
Prenatal diagnosis of aortopulmonary window with interrupted aortic arch by fetal echocardiography.  
Fetal Diagn Ther 27(2):97-100,2010

## 薬剤科

35. **Shigehumi Morimoto**, Tetsuya Horiuchi, **Yoshiharu Shono**, Takashi Miyabe, **Yumi Nakajima**, Isao Akiyama, Kagehiro Uchida, Yoshikazu Fujita, Kenji Hasegawa, **Katsuyoshi Tabuse**.  
Significance of urinary uracil measurement following administration of DPD inhibitory fluoropyrimidine(DIF) products.  
Jpn.J.Cancer Chemother 36(4):683-686,2009
36. **Shigefumi Morimoto**, Ichiro Matsuura, **Yoshiharu Shono**, Tetsuya Horiuchi, **Yumi Nakajima**, Takashi Miyabe, Yoshimi Hachino, Kenji Hasegawa, Kazuyo Matsuyama, Yoshikazu Fujita, **Katsuyoshi Tabuse**.  
Individual differences in rate-limiting reactions during metabolism of irinotecan hydrochloride.  
Jpn.J.Cancer Chemother 36(7):1135-1140,2009
37. **Shigefumi Morimoto**, Toshiki Koda, Tomoki Suidzu, **Ryunosuke Uranishi**, **Yoshiharu Shono**, Isao Akiyama, Kumiyo Shimizu, Yoshikazu Fujita, Kenji Hasegawa, **Katsuyoshi Tabuse**.  
Significance of urinary glucaric acid measurement and its application to paclitaxel therapy.  
Jpn.J.Cancer Chemother 36(11):1857-1861,2009

## 邦文

1. **野田善樹、入野宏昭、森澤大祐、北田博一、足達英悟、安岡良典、佐々木達哉**  
64列MDCTによるoverlappedまたはCulotte stenting後のステント内再狭窄の評価  
CVIT Cardiovascular Intervention and Therapeutics Japanese Edition 2009.  
VOL.1 NO.1: 40-48、2009
2. **安岡良典、安部晴彦、梅川成子、勝木桂子、田中教雄、服部 進、野田善樹、足達英悟、入野宏昭、佐々木達哉、宮武邦夫**  
心筋 strain rate を用いた心房収縮伝導の評価 - 発作性心房細動例における検討 -  
「心臓」Vol.42 No.3 322-328、2010
3. 東さやか, **森本茂文、香川邦彦、片田圭宣**, 長谷川健次, **田伏克惇**  
TS-1 適正使用確認システムの構築とその応用  
癌と化学療法 vol.37(3), 469-472、2010
4. 金子 晃、久保光彦、山田涼子、谷村知紀、山口大輔、山本守敏、巽 信之、中間明弘、三田英治、加藤道夫、**肱岡泰三**、尾下正秀、伊藤敏文、片山和宏、今中和穂、吉原治正、桐山和雄、今井康陽、柏原 赳、福井弘幸、鈴木都男、三好志雄、山田 晃、

- 薬師神崇行、望月 圭、平松直樹、竹原徹郎、林 紀夫  
自己免疫性肝炎の新しい国際診断基準の検討  
日本消化器病学会雑誌 2010 in press
5. **椿原秀明**、植村隆一郎、**庄野嘉治**、**坂口 聡**、**谷島裕之**、**田伏克惇**  
腹腔鏡下胆嚢摘出術後に胆嚢管へのクリップの迷入を伴った胆嚢管結石症の1例  
日本臨床外科学会雑誌 70 (9) : 2772-2775、2009
6. **椿原秀明**、嶋田浩介、山口和哉  
縦走潰瘍を形成したアミロイド大腸炎の1例  
日本臨床外科学会雑誌 71 (3) : 752-756、2010
7. 堀田 司、瀧藤克也、横山省三、松田健司、**冨永敏治**、奥 喜全、那須 亨、田村  
耕一、家田淳司、山上裕機  
直腸癌に対する腹腔鏡補助下大腸切除術習得前後における手術成績の比較  
和歌山医学 60 巻2号 35-40、2009
8. 堀田 司、瀧藤克也、横山省三、松田健司、**冨永敏治**、奥 喜全、那須 亨、田村  
耕一、家田淳司、山上裕機  
結腸癌に対する腹腔鏡補助下大腸切除術習得前後における手術成績の比較  
和歌山医学 60 巻2号 41-46、2009
9. **棟方 哲**  
マイクロウェーブを用いた免疫組織化学  
Medical Technology 37 巻、969-974、2009
10. 北田祐紀、井澤一隆、井本一彦、**米延策雄**  
結核性脊椎炎における麻痺発症因子の検  
討臨床整形外科 44-6 : 529-533、2009
11. **大島万里子**、**萩尾佳介**、**小山 毅**、**齊藤正伸**、**米延策雄**  
人工膝関節全置換術後に大腿骨骨幹部脆弱性骨折を合併した関節リウマチの1例  
中部日本整形外科学会雑誌 52-4 : 1033-1034、2009
12. 和田英路、福井 充、廣田良夫、**米延策雄**  
【項頸部痛の病態と治療-最近の知見】頸部脊髄症に伴う項頸部痛  
整形・災害外科 53-1 : 5-12、2010
13. 坂井顕一郎、川端茂徳、四宮謙一、中村耕三、戸山芳昭、菊地臣一、**米延策雄**、  
永田見生、持田讓治、中山健夫、川原和夫  
腰椎椎間板ヘルニア診療ガイドラインの有効性調査研究成果報告  
日本整形外科学会雑誌 83 : 401-412、2009
14. 田口敏彦、谷 俊一、宮本雅史、金森昌彦、嶋村 正、竹下克志、田中靖久、谷口慎  
一郎、千葉一裕、中井定明、和田英路、川上 守、**米延策雄**、福井 充  
腰部脊柱管狭窄症に対する JOABPEQ の妥当性の検討

日本脊椎脊髄病学会雑誌 20 : 15、2009

15. 千葉一裕、福井 充、川上 守、菊地臣一、紺野慎一、嶋村 正、白土 修、星地亜都司、高橋和久、田口敏彦、竹下克志、谷 俊一、戸山芳昭、宮本雅史、米延策雄、廣田良夫

日本脊椎脊髄病学会診断評価等基準委員会：頸椎後縦靱帯骨化症に対する日本整形外科学会頸部脊髄症評価質問票 (JOACMEQ) の有用性

日本脊椎脊髄病学会雑誌 20 : 8、2009

16. 川上 守、金森昌彦、菊地臣一、紺野慎一、嶋村 正、白土 修、星地亜都司、高橋和久、田口敏彦、竹下克志、田中靖久、谷 俊一、谷口慎一郎、千葉一裕、戸山芳昭、中井定明、廣田良夫、福井 充、宮本雅史、米延策雄、和田英路

日本脊椎脊髄病学会診断評価等基準委員会：日本整形外科学会頸部脊髄症評価質問票 (JOACMEQ) を用いた患者評価と頸部脊髄症治療成績判定基準 (JOA score) の関係について 頸椎椎間板ヘルニア、頸椎症症例を用いて

日本脊椎脊髄病学会雑誌 20 : 7、2009

17. 小山 毅、米延策雄、秋田鐘弼、齊藤正伸

踵骨骨折手術における C アーム型 CT の有用性

別冊整形外科 56 : 221-225、2009

18. 牧野孝洋、海渡貴司、米延策雄

軟性腰仙椎装具 (ダーメンコルセット)

脊椎脊髄ジャーナル 22 巻 6 号 793-797、2009

19. 牧野孝洋、細野 昇、向井克容、三輪俊格、富士武史

腰椎椎間板ヘルニアにおける患側大腰筋の萎縮

臨床整形外科 44 巻 2 号 167-172、2009

20. 牧野孝洋、細野 昇、三輪俊格、向井克容、内田良平、富士武史

同一高位腰椎再手術例の成績と合併症

臨床整形外科 44 巻 3 号 251-255、2009

21. 海渡貴司、細野 昇、富士武史、牧野孝洋、米延策雄

後方進入腰椎椎体間固定術 (PLIF) において椎間を持ち上げすぎると隣接椎間障害を来す (第 2 報) - 棘突起プレートを用いた PLIF と椎弓根スクリューを用いた PLIF の比較

臨床整形外科 44 巻 12 号 1249-1256、2009

22. 海渡貴司、米延策雄

胸部脊髄症をきたす疾患と症候学

脊椎脊髄ジャーナル 22:143-148、2009

23. 米延策雄

患者立脚の治療成績評価 頸部脊髄症ならびに腰痛疾患治療成績評価の策定

日本整形外科学会雑誌 83-11 : 883-892、2009

24. 米延策雄

脊椎外科におけるリスクマネジメント

日本脊椎脊髄病学会雑誌 20-4 : 802-812、2009

25. 幸原晴彦、藤島裕也、北村哲宏、平尾利恵子、山口竜司、松尾正氣、中林才治、村田貞史、笹井智令、山片重法

都市規模で展開した認知行動療法・行動療法的アプローチの併用による生活習慣病地域連携の試み

大阪医学 Vol. 42 No. 2 p44-49 Oct、2009

26. 林 丈二、稲村 昇

新しい超音波画像解析装置による胎児心臓検診の確立

大阪府立母子保健総合医療センター雑誌(0911-2081)25 巻 1 号 Page34-38、2009

27. 西村信弘、土井教雄、上村智哉、竹谷 健、林 丈二、葛西武司、金井理恵、山口清次、岩本喜久生、直良浩司

麻黄湯坐剤の調製・製剤学的評価及び小児有熱患者への臨床応用

薬学雑誌(0031-6903)129 巻 6 号 Page759-766、2009

28. 萬谷和広

現場から提起するソーシャルワークの課題「急性期医療におけるソーシャルワーカーの介入方法の検討-介入期間の確保による援助の向上に向けて-

『ソーシャルワーク研究』 第 34 巻第 1 号, p58~p64 相川書房, 2009 年 (単著)

2) 総説

欧文

Takashi Ozaki, Ichiro Mori, Kennichi Kakudo, Katsuyoshi Tabuse, Takaomi Suzuma  
Takeo Sakurai, Misa Nakamura.

Chapter 6. New Types of Cell Death: Morphological and Molecular Characteristics,  
Molecular mechanism and Morphology in Cancer.

Bentham Science Publishers Ltd.99-116,2009

邦文

佐伯行彦

生物学的製剤 Up-date 七川歆次監修

リウマチ病セミナーXX 永井書店 171-7、2009

### 大島至郎

痛風の新しい治療法

リウマチ病セミナーXX 七川勸次監修、2009

### 橋川一雄

脳 SPECT による脳機能および機能局在に関する研究

細胞 41(4)：140-142、2009

### 棟方 哲

各論第8章 女性生殖器、青笹克之編、解明病理学、

医歯薬出版株式会社 470-497、2009

### 米延策雄

脊椎手術の周術期管理 最新整形外科学大系 10「脊椎・脊髄」

中山書店 p.100-111、2009

### 海渡貴司、米延策雄

胸部脊髄症を来す疾患と症候学 脊椎脊髄ジャーナル

三輪書店 143-148、2009

### 海渡貴司、米延策雄

高齢者の腰痛「その評価と鑑別診断 (心身医学的問題も含めて)」MB Orthopaedics

全日本病院出版会 22:9-16、2009

### 海渡貴司、米延策雄

椎弓形成術 CLINICIAN

エーザイ 92-96、2009

### 米延策雄

頸椎症性脊髄症頸椎症性脊髄症 (頸椎後縦靱帯骨化症を含む)

山口徹、北原光夫、福井次矢編

今日の診断指針 2010 版 医学書院 p.853-4、2010

### 米延策雄

RA 頸椎手術のシンポについて教えてください

リウマチクリニック 9:19、2009

**海渡貴司, 米延策雄**

【運動器の10年 ロコモの要因としての腰部脊柱管狭窄症】

腰部脊柱管狭窄症 手術 椎弓形成術

クリニシアン 56-5-6 : 666-670、2009

**山本よしこ**

感染症で入院した乳児への母乳育児支援

小児看護 32 巻 6 号、へるす出版、702-706、2009

**山本よしこ**

すれ違いコミュニケーションをなくそう！すぐ使える70の事例から学ぶ 母乳育児支援ブック

第3章 事例から学ぶ母乳育児支援

第1節 母乳育児をはじめる前に

事例② 授乳中の母親の栄養・食事

ペイネイタルケア 夏季増刊、メディカ出版、58-61、2009

**石田奈々、大西明子、井上磨智子、宮本典子**

新人看護師の技術習得における集合教育とOJTの連携

岸田良平（編集発行人）

看護人材教育（隔月刊誌）日総研 P53～P64 H22年2・3月号

(2) 学会発表

海外（国内開催の国際学会を含む）

**免疫異常の分野**

1. 2009 Annual European Congress of Rheumatology (EULAR), 2009年6月,  
Copenhagen/Denmark

**Saeki Y, Ohshima S, Matsushita M, Ishii M, Kudo-Tanaka E, Kikuta J & NHO**  
iR-net Investigators.

A prospective study for biomarkers predicting the progression of joint-destruction  
in early stages of rheumatoid arthritis (RA).

Ann Rheu Dis 68:735, 2009

**Ohshima S, Matsushita M, Kudo-Tanaka E, Saeki Y.**

Efficacy of tacrolimus in three patients with rheumatoid arthritis on

hemodialysis.

2. 10<sup>th</sup> international symposium on Sjögren's syndrome Brest, France. 1-3 October 2009

**Kudo-Tanaka E**, Nakatsuka S, Hirano T, Kawai M, **Katada Y, Matsushita M, Ohshima S, Ishii M, Miyatake K**, Tanaka T, **Saeki Y**.

A case of Mikulicz's disease with Th2-biased cytokine profile: Possible feature discriminable from Sjogren's syndrome.

Mod Rheumtol 19(6):691-5, 2009

### 循環器疾患の分野

3. The 59<sup>th</sup> Annual Scientific Session of the American College of Cardiology, Atlanta, Georgia, USA, Mar 14-16, 2010

**Yasuoka Y, Kosugi M, Araki R, Imanaka T, Matsutera R, Hattori S, Noda Y, Adachi H, Irino H, Sasaki T**.

Plasma osteopontin levels were more elevated in coronary artery than in systemic circulation in patients with acute coronary syndrome.

**Abe H**, Caracciolo G, Belohlavek M, Khandheria B, Tajik AJ, Narula J, Chandrasekaran K, Sengupta P.

Planar maps of left ventricular vorticity fields in human hearts: novel insights with the use of high resolution echo contrast particle imaging velocimetry.

### がんの分野

4. The 60<sup>th</sup> annual Meeting of the American Association for the Study of Liver Diseases (AASLD) Boston, USA. 2009.10.30-11.3

T. Oze, N. Hiramatsu, T. Yakushijin, Y. Inoue, N. Kurashige, T. Igura, K Mochizuki, K. Imanaka, A. Kaneko, M. Oshita, H. Hagiwara, E. Mita, T. Nagase, T. Ito, Y. Inui, **T. Hijioka**, K. Katayama, H. Yoshihara, Y. Imai, M. Kato, Y. Yoshida, T. Tatsumi, K. Ohkawa, S. Kiso, T. Kanto, A. Kasahara, S. Tamura, T. Takehara, N. Hayashi.

Reducing drug doses in genotype 1 patients with chronic hepatitis C during treatment with pegylated interferon alfa-2b plus ribavirin delays the timing of HCV RNA negativity or prevents its attainment; a propensity score-matched study.

## 骨・運動器疾患の分野

5. 56th Annual Meeting of the Orthopaedic Research Society.  
2010/03, Morial Convention Center Hall H New Orleans, Louisiana  
Nakamura Y, Naito M, Moriyama S, Okawa T, Kume S, **Saito M, Hagio K, Koyama T.**  
Comparison of Clinical Results and Polyethylene Wear Associated with 26- and 32-  
mm Heads in Total Hip Arthroplasty.  
A Multicenter, Prospective, Randomized Study
  
6. 6th Asian Society for Computer Assisted Orthopaedic Surgery (CAOS Asia)  
2009/04, Osaka  
**Koyama T,** Takao M, Nishii T, Sakai T, Hananouchi T, Shiomi T, Nakahara I, Tsuda  
K, Yoshikawa H, Sugano N.  
Easy Simulation Method of Transtrochanteric Rotational Osteotomy for Femoral  
Head Osteonecrosis using Multi-Planar Reconstruction of MR Images.
  
7. 22th International Society for Technology in Arthroplasty 2009/10, Hawaii  
Shiramizu K, Naito M, Moriyama S, Okawa T, Kume S, **Saito M, Hagio K, Koyama T.**  
Effect of Highly Cross-Linked Polyethylene Thickness on its Wear Measurement  
in Total Hip Arthroplasty-A Multi Center Trial.
  
8. 37th Cervical spine research society 2009/12, Salt Lake City  
**Kaito T,** Hosono N, Sakaura H, Mukai Y, **Yonenobu K,**  
Test-retest Reliability of 10-second Test for Patients of Cervical Myelopathy.

## 小児科

9. Academy off Breastfeeding Medicine's 14th Annual International Meeting in  
Williamsburg, Virginia (2009年11月)(Williamsburg, Virginia)  
**Yoshiko Yamamoto,** Yukiko Takahashi, Yuri Dowa, Masaki Minami, Shigeru  
Takishima, Kinuko Kojima, Mayumi Nagasawa, Naoto Yamaguchi, Toshihiko  
Nishida, Kikuko Oku .  
Htlv-1 transmission via breastfeeding from mother to child -A review of literature  
in japan.

国内

免疫異常の分野

第 53 回日本リウマチ学会総会・学術集会 2009 年 4 月、東京

松下正人、菊田順一、田中枝里子、石井 優、大島至郎、山中隆夫、原田芳徳、石井泰子、片田圭宣、佐伯行彦

重度の血球貪食症候群を発症したが、ステロイド・パルス療法が著効した関節リウマチの 1 例

田中枝里子、松下正人、菊田順一、石井 優、大島至郎、佐伯行彦

インフリキシマブ療法中 B00P を発症した RA の 2 例

菊田順一、田中枝里子、石井 優、松下正人、大島至郎、佐伯行彦

レミケード、エンブレルが無効で、アクテムラが奏功した難治性関節リウマチの 3 症例

日本医療情報学会 2009 年 6 月、東京

平井依恵、河野里沙、山田加代子、豊田恵美子、香川邦彦、大島至郎

電子カルテ導入にともなうリウマチ診療支援システムの開発

第 19 回日本リウマチ学会近畿支部学術集会 2009 年 9 月、大阪

大島至郎

教育講演 1 リウマチ診療アップデート 薬物療法

大島至郎

寛解を目指した最新のリウマチ治療

地域で新しいリウマチ医療連携ネットワークを

松下正人

リウマチ診療における医療連携の取り組み

日本医療薬学会年会 2009 年 10 月、長崎

井谷裕美子、西田真佐夫、北村良雄、大島至郎

当院における RA 患者に対する Tocilizumab 導入調査について

国立病院総合医学会 2009 年 10 月、仙台

香川邦彦、大島至郎

リウマチ診療支援システムの開発～診療の標準化と効率化を目指して

第 21 回日本アレルギー学会春季臨床大会 2009 年 6 月、岐阜

山中隆夫、原田芳徳、石井泰子、菊田順一、田中枝里子、石井 優、松下正人、大島至郎、佐伯行彦、片田圭宣

骨髄線維症を認めた混合性結合組織病の一症例

アレルギー (0021-4884) 58 巻 3-4 Page380 (2009. 04)

第 74 回日本呼吸器学会地方会 2009 年 12 月、大阪

西條伸彦、松野 治、葉山義友、本田英弘、山根宏之、上野清伸

SLE に合併した BOOP の一例

第 49 回日本呼吸器学会総会 2009 年 5 月、東京

Junji Uchida, Kazumi Nishino, Kiyonobu Ueno, Fumio Imamura.

Treatment for Pre-treated NSCLC with S-1 and Paclitaxel.

### 循環器疾患の分野

第 20 回日本心エコー図学会学術総会 2009 年 4 月、高松

服部 進、安部晴彦、佐々木達哉、安岡良典、入野宏昭、足達英悟、野田善樹、森澤大祐、北田博一、荒木 亮、今仲崇裕、松寺 亮、小杉元宏、佐々木達哉、宮武邦夫

貧血が正常高齢者の左室拡張能に与える影響についての検討

梅川成子、安部晴彦、荒木 亮、足達英悟、服部 進、佐々木達哉、宮武邦夫

スタチンおよびニコランジル内服により冠血流予備能改善を認めた高 LDL 血症合併慢性関節リウマチの 1 症例

第 18 回日本心血管インターベンション治療学会 2009 年 6 月、札幌

Yasuoka Y, Morisawa D, Kitada H, Noda Y, Adachi H, Irino H, Sasaki T.

A report of coronary artery perforation during PCI. -occurrence and management in a medical center-

Adachi H, Sasaki T, Yasuoka Y, Irino H, Noda Y, Araki R, Matsutera R.

Drug-eluting stent improved the result of percutaneous coronary intervention for de novo right coronary artery ostial lesions.

Adachi H, Sasaki T, Yasuoka Y, Irino H, Noda Y, Araki R, Matsutera R.

"Culotte stent" for unprotected left main coronary artery true bifurcation (de novo

lesion).

Araki R, Adachi H, Yasuoka Y, Irino H, Noda Y, Kitada H, Morisawa D, Matsutera R, Sasaki T.

Clinical Results of Complete Revascularization by PCI for Triple Vessel Disease.

Matsutera R, Adachi H, Araki R, Morisawa D, Kitada H, Noda Y, Yasuoka Y, Sasaki T.

Clinical outcomes after drug-eluting stenting for in stent restenosis.

第 15 回日本血管内治療学会 2009 年 7 月、東京

足達英悟、佐々木達哉、安岡良典、入野宏昭、安部晴彦、野田善樹、服部 進、荒木 亮、松寺 亮、今仲崇裕、小杉元宏

非保護左冠動脈主幹部分岐部病変に対するキュロットステント

野田善樹、入野宏昭、佐々木達哉、安岡良典、安部晴彦、足達英悟、服部 進、荒木 亮、松寺 亮、今仲崇裕、小杉元宏

DES 留置後再狭窄の新しいメカニズム：慢性リコイルについて ～64 列 MDCT を用いた culotte stenting 後の経時的観察～

荒木 亮、足達英悟、安岡良典、入野宏昭、安部晴彦、野田善樹、服部 進、今仲崇裕、松寺 亮、小杉元宏、佐々木達哉

三枝病変に対する PCI での完全血行再建の臨床成績

松寺 亮、佐々木達哉、安岡良典、足達英悟、野田善樹、荒木 亮

ステント内再狭窄に対する薬剤溶出性ステントの臨床成績

第 57 回日本心臓病学会学術集会 2009 年 9 月、札幌

安岡良典、安部晴彦、梅川成子、勝木桂子、小杉元宏、荒木 亮、今仲崇裕、松寺 亮、服部 進、野田善樹、足達英悟、入野宏昭、佐々木達哉

心房収縮伝導の評価は発作性心房細動を予測可能か？ - 心筋 strain rate を用いた検討 -

足達英悟、佐々木達哉、安岡良典、入野宏昭、安部晴彦、野田善樹、服部 進、荒木 亮、松寺 亮、今仲崇裕、小杉元宏

大動脈-冠動脈入口部病変に対する経皮的冠動脈形成術の成績は DES によって改善された

野田善樹、入野宏昭、佐々木達哉、安岡良典、安部晴彦、足達英悟、服部 進、荒木 亮、

今仲崇裕、松寺 亮、小杉元宏

DES 留置後再狭窄の新しいメカニズム：慢性リコイルについて <64 列 MDCT を用いた culotte stenting 後の経時的観察>

野田善樹、入野宏昭、安岡良典、安部晴彦、足達英悟、服部 進、荒木 亮、今仲崇裕、松寺 亮、小杉元宏、佐々木達哉

スタチンによる冠動脈プラークの退縮 <64 列 MDCT を用いての 6 症例の経時的観察>

服部 進、安部晴彦、安岡良典、入野宏昭、足達英悟、野田善樹、荒木 亮、今仲崇裕、松寺 亮、小杉元宏、佐々木達哉

左室収縮能の正常な非虚血高齢者におけるヘモグロビン濃度の拡張能に与える影響

荒木 亮、足達英悟、安岡良典、入野宏昭、安部晴彦、野田善樹、服部 進、今仲崇裕、松寺 亮、小杉元宏、佐々木達哉

三枝病変に対する PCI での完全血行再建の臨床成績

荒木 亮、足達英悟、安岡良典、入野宏昭、安部晴彦、野田善樹、服部 進、今仲崇裕、松寺 亮、小杉元宏、佐々木達哉、野田 崇、里見和浩、須山和弘、清水 渉、鎌倉史郎

PCI により左室機能が改善したため、偽性腱索による運動誘発性心室頻拍が生じた一例

今仲崇裕、服部 進、安部晴彦、安岡良典、入野宏昭、足達英悟、野田善樹、荒木 亮、松寺 亮、小杉元宏、佐々木達哉

心房細動患者の心尖部 Rotation は先行 RR 間隔に依存する

松寺 亮、佐々木達哉、安岡良典、入野宏昭、安部晴彦、足達英悟、野田善樹、服部 進、荒木 亮、今仲崇裕

ステント内再狭窄に対する薬剤溶出性ステントの成績

第 13 回日本心不全学会 2009 年 10 月、福岡

Araki R, Noda Y, Imanaka T, Matsutera R, Sasaki T.

A Case of Exercise-induced Ventricular Tachycardia After Left Ventricular Functional Improvement by Successful PCI: Novel Aspects of Management to Hibernative Myocardium?

Imanaka T, Hattori S, Abe H, Yasuoka Y, Irino H, Adachi H, Noda Y, Matsutera R, Araki R, Kosugi K, and Sasaki T.

Influence of Preceding RR Interval on Left Ventricular Apical Rotation by Speckle Tracking Echocardiography in Patients with Atrial Fibrillation.

Matsutera R, Noda Y, Yasuoka Y, Irino H, Adachi H, Hattori S, Araki R, Imanaka T, Kosugi M, Sasaki T.

Switching to atrioventricular (AV) synchronized pacing in refractory heart failure: a case report.

第 20 回日本心血管画像動態学会 2010 年 1 月、東京

野田善樹、入野宏昭、安岡良典、足達英悟、服部 進、荒木 亮、今仲崇裕、松寺 亮、小杉元宏、佐々木達哉

非石灰化冠動脈プラークに対するスタチンの効果<64 列 MDCT を用いての経時的観察>

松寺 亮、野田善樹、安岡良典、足達英悟、服部 進、荒木 亮、今仲崇裕、小杉元宏、佐々木達哉

再灌流した急性心筋梗塞患者の 64 列マルチスライス CT を用いた心機能評価：経胸壁心エコー及び心電図同期心筋 SPECT との比較

第 74 回日本循環器学会総会 2010 年 3 月、京都

Yasuoka Y, Kosugi M, Araki R, Imanaka T, Matsutera R, Hattori S, Noda Y, Adachi H, Irino H, Sasaki T.

Plasma osteopontin levels were more elevated in coronary artery than in systemic circulation in patients with acute coronary syndrome.

第 107 回日本循環器学会近畿地方会 2009 年 6 月、大阪

今仲崇裕、安部晴彦、安岡良典、入野宏昭、足達英悟、服部 進、野田善樹、北田博一、森澤大祐、荒木 亮、松寺 亮、佐々木達哉

心尖部壁在血栓を合併したたこつぼ型心筋症の一例

松寺 亮、野田善樹、安岡良典、入野宏昭、安部晴彦、足達英悟、服部 進、北田博一、森澤大祐、荒木 亮、今仲崇裕、佐々木達哉、浦西龍之介、棟方 哲

Angio-seal™ 使用後に血管内閉塞をきたし、血管内膜除去術を施行し改善を認めた一例

第 108 回日本循環器学会近畿地方会 2009 年 12 月、和歌山

小杉元宏、安岡良典、荒木 亮、今仲崇裕、松寺 亮、服部 進、野田善樹、足達英悟、入野宏昭、佐々木達哉

DC 不成功も、その後自然除細動しペプリジルにて洞調律維持できた心不全合併持続性心房細動の一例

## がんの分野

第 95 回日本消化器病学会総会 2009 年 5 月、札幌

中西文彦、川端由梨、瀧川貴生、廣谷 環、向井香織、松本健吾、榊原祐子、田中好男、増田栄治、肱岡泰三

当科における非切除胆道癌に対する化学療法の見直し

川端由梨、瀧川貴生、松本健吾、廣谷 環、向井香織、榊原祐子、中西文彦、田中好男、増田栄治、肱岡泰三、庄野嘉治、椿原秀明、棟方 哲

無症候性多発グルカゴノーマの一例

第 77 回日本消化器内視鏡学会総会 2009 年 5 月、名古屋

廣谷 環、増田栄治、瀧川貴生、埜中由梨、向井香織、松本健吾、榊原祐子、中西文彦、田中好男、肱岡泰三

胸部違和感を主訴に救急搬送され広範囲な食道粘膜下血腫を呈した一症例

第 45 回 日本胆道学会学術集会 2009 年 9 月、千葉

川端由梨、中西文彦、瀧川貴生、廣谷 環、向井香織、榊原祐子、田中好男、増田栄治、肱岡泰三

当科における非切除膵胆道癌に対する胆管ステント留置術に関する検討

JDDW 2009 第 51 回日本消化器病学会大会 2009 年 10 月、京都

瀧川貴生、川端由梨、向井香織、廣谷 環、松本健吾、榊原祐子、中西文彦、田中好男、増田栄治、肱岡泰三

長期間下血を繰り返した直腸びまん性海綿状血管腫の一例

第 38 回 日本肝臓学会西部会 2009 年 12 月、米子

向井香織、瀧川貴生、川端由梨、仲川 環、榊原祐子、中西文彦、田中好男、増田栄治、肱岡泰三

不顕性感染後に慢性化した B 型慢性肝炎 genotype A の一症例

第 84 回日本消化器内視鏡学会近畿地方会 2010 年 3 月、大阪

瀧川貴生、川端由梨、向井香織、廣谷 環、榊原祐子、中西文彦、田中好男、増田栄治、  
肱岡泰三

ソラフェニブ投与後に下部消化管出血をきたした一例

第 64 回日本消化器外科学会総会 2009 年 7 月、大阪

冨永敏治、岩橋 誠、瀧藤克也、堀田 司、横山省三、松田健司、奥 喜全、那須 亨、  
田村耕一、山上裕機

p53 の遺伝子変異と遺伝子多型解析の組み合わせによる大腸癌抗癌剤感受性予測

第 71 回日本臨床外科学会総会 2009 年 11 月、京都

冨永敏治、岩橋 誠、瀧藤克也、堀田 司、横山省三、松田健司、奥 喜全、山上裕機  
p53 の遺伝子変異と多型解析による大腸癌化学療法の効果予測

第 90 回日本肺癌学会地方会 2009 年 7 月、大阪

赤澤結貴、上野清伸、内田純二、西野和美、熊谷 融、今村文生  
肺癌治療経過中に両側外転神経麻痺を生じた 1 例

第 8 回臨床腫瘍学会総会 2010 年 3 月、東京

野呂林太郎、弦間昭彦、吉村明修、宝来 威、西尾誠人、木村幸男、井上 彰、大崎能伸、  
池田徳彦、坪井正博、上野清伸、今村文生  
切除不能3B/4 期非小細胞肺癌に対するゲムシタビン+カルボプラチン投与方法別併用療  
法のRandomized Phase2STUDY (LC01)

第 32 回日本呼吸器内視鏡学会学術集会 2009 年 5 月、東京

内田純二、赤澤結貴、西野和美、上野清伸、中山富雄、今村文生  
極細径気管支鏡のブラシ擦過法による到達困難な末梢肺癌の診断法の検討

第 106 回日本内科学会講演会 2009 年 4 月、東京

西野和美、赤澤結貴、上野清伸、内田純二、今村文生  
進行非小細胞肺癌に対するエルロチニブ投与症例の検討

第 61 回日本産科婦人科学会 2009 年 4 月、京都府

川辺紗智子、森寫祥子、岩井恵美、神田隆善  
卵巣境界悪性腫瘍Ⅲb 症例についての検討

第 120 回近畿産科婦人科学会、兵庫県

川辺紗智子、森蔦祥子、岩井恵美、神田隆善、棟方 哲

卵巣成熟嚢胞性奇形腫、悪性転化 3 症例

田中智人、加藤 俊

Mestranor-Noretisterone 内服後に生じた子宮内外同時妊娠の 1 例

加藤壮介、田中智人、加藤 俊

Interstitial pregnancy treated by transcervical aspiration of gestational sac with systemic and local administration of methotrexate

第 121 回近畿産科婦人科学会 2009 年 11 月、兵庫県

百谷起代子、田中智人、岩井恵美、神田隆善

C A199 の上昇を認めた境界悪性明細胞腺線維腫

第 31 回日本エンドメトリーオーグニス学会 2010 年 1 月、京都府

百谷起代子、田中智人、岩井恵美、神田隆善

腹壁子宮内膜症の 2 例

第 98 回日本病理学会総会 2009 年 5 月、京都市

棟方 哲、中塚伸一

尿道周囲に発生した clear cell adenocarcinoma の 1 例

第 36 回国立病院臨床検査技師協会近畿支部学会 2009 年 6 月、神戸市

小山奈津子、若林和彦、名嘉正勝、田中和子、菅尾龍彦、増田喜一、棟方 哲

甲状腺硝子化索状腺腫の 1 例

第 50 回日本臨床細胞学会総会 2009 年 6 月、東京都

小山奈津子、田中和子、菅尾龍彦、若林和彦、棟方 哲

甲状腺硝子化索状腺腫の一例

棟方 哲、中村純子、田中和子、菅尾龍彦、若林和彦、小山奈津子、田伏克惇

迅速蛍光免疫法の液状検体細胞診断への応用

第 46 回日本婦人科腫瘍学会学術集会 2009 年 7 月、新潟市

棟方 哲、岩井恵美、森蔦祥子、川邊紗智子、神田隆善

卵巣奇形腫悪性転化の 1 例

第 293 回日本医学放射線学会関西地方会 2009 年 10 月、大阪市

三浦光太郎、永田伊都子、田中佐織、坂下真理子、津村 昌、相馬俊裕、田中一巨  
脾臓照射が著効した前リンパ球性白血病の一例

### 骨・運動器疾患の分野

第 40 回日本人工関節学会 2010 年 2 月、沖縄

澤田典与司、住友 暁、松井嘉男、中川 滋、萩尾佳介、梅田直也、斉藤正伸、西塔 進  
セメントレス人工関節 (Zimmer Versys Hip System) における Fider Metal Taper stem と  
Midcoat stem の短期成績比較

第 82 回日本整形外科学会学術集会 2009 年 5 月、福岡

### 米延策雄

脊椎脊髄病領域における技術認定制度の意義. シンポジウム 16 「整形外科医の手術スキル  
と診療報酬—技術認定制度と手術需要数から—」

### 米延策雄

社会との関係からみた認定指導医. シンポジウム 24 「今、日本脊椎脊髄病学会認定脊椎脊  
髄外科指導医に求められていること」

第 112 回中部日本整形外科・災害外科学会 2009 年 4 月、京都

### 生田研祐、萩尾佳介、小山 毅、大島万里子、斉藤正伸、米延策雄

理学的予防法のみを行った下肢人工関節置換術後の深部静脈血栓症の検討

### 大島万里子、萩尾佳介、小山 毅、松浦健司、斉藤正伸、米延策雄

人工膝関節全置換術に右側大腿骨骨幹部脆弱性骨折を合併した関節リウマチの一例

第 113 回中部日本整形外科・災害外科学会 2009 年 10 月、神戸

### 牧野孝洋、細野 昇、三輪俊格、武中章太、向井克容、富士武史

後方進入腰椎椎体間固定術後の難治性感染に対し後方より搔爬・骨移植を行い骨癒合を得  
た 1 例

第 82 回日本整形外科学会学術集会 2009 年 5 月、福岡

### 大川孝浩、久米慎一郎、内藤正俊、白水 圭、斉藤正伸、小山 毅、森山茂章

THA におけるクロスリンクポリエチレン摩耗量の検討—骨頭径の違いが与える影響—

第 38 回日本脊椎脊髄病学会 2009 年 4 月、神戸

海渡貴司、細野 昇、富士武史、牧野孝洋、米延策雄

棘突起プレートとネジ型ケージを用いた腰椎固定は隣接椎間障害を起こしにくい

## 内科

第 52 回日本糖尿病学会年次総会 2009 年 5 月、大阪

平尾利恵子、北村哲宏、幸原晴彦

糖尿病神経障害の広範囲 QOL 低下への関与

第 190 回日本内科学会近畿地方会 2009 年 12 月、神戸

藤島裕也、幸原晴彦、平尾利恵子、北村哲宏

自己免疫性膵炎の経過中に、中枢性尿崩症を発症した 1 例

## 脳神経外科

第 57 回日本脳神経外科学会近畿支部学術集会 2009 年 4 月、大阪

福田孝憲、浦西龍之介、小林潤也、山田與徳、鄭 倫成、杉本 正、四宮一剛

左内頸動脈解離の一例

第 58 回日本脳神経外科学会近畿支部学術集会 2009 年 9 月、大阪

福田孝憲、浦西龍之介、鄭 倫成、杉本 正、四宮一剛

脳梗塞急性期に不安定プラークを認め急性期頸動脈内膜剥離術 (CEA) を行った一例

## 小児科

第 23 回近畿小児科学会 2010 年 3 月、大津市

横井俊明、服部英司、野村志保、松岡 収、山野恒一、山本よしこ

セフトリアキソンナトリウム投与により可逆性偽胆石を認めた重症心身障害女児の一例

第 45 回日本小児循環器学会 2009 年 7 月、神戸

石井 円、稲村 昇、渡辺 健、林 丈二、池田智明

新生児治療からみた胎児診断と周産期管理 STIC 法を用いた胎児心臓スクリーニング検査の有用性と課題

## 薬剤科

第 31 回日本病院薬剤師会近畿学術大会 2010 年 1 月、京都

大西佑果、森本茂文、田路章博、岸岡亜紀子、松田浩子、片田圭宣、北村良雄

薬疹におけるパッチテスト陽性反応因子についての検討

## 感染対策室

第 25 回日本環境感染学会総会 2010 年 2 月、東京

三五裕子、山本よしこ、福田 修

産婦人科病棟における結核排菌患者発生事例と対策～接触者検診を実施して～

福田 修、宮良高雄、中埜伸二、藤井友美、山崎多江子、飯森真光、櫛引千恵子、山口逸弘、門谷美里、富田元久、新見喜洋

南大阪地域 14 施設における地域薬剤感受性率情報の経年追跡（3 年目）

## 相談室

第 63 回国立病院機構総合医学会 2009 年 10 月、仙台

小澤徹也

相談室窓口開設による試み

## 看護部

第 63 回国立病院総合医学会 2009 年 10 月、仙台

浦部 静、荒川内涼子、松川佐和子

脳外科疾患患者の自立排泄支援の検討

西田真美、松下祐子

終末期患者の QOL を高めるためには

田中陽子、増山裕香、池田陽子、奥垣久仁子、甘野泰子

泌尿器科が手術におけるがん性疼痛コントロールに関連した看護師の意識調査

竹口陽子、竹田真理子

腹腔鏡下手術の術中看護における知識・技術の実態調査

第 51 回看護部長協議会主催看護学会 2009 年 10 月、大阪

和田直子

確認行動定着のための安全唱和の効果

加藤恵子、石田奈々、吉本理浦、井上磨智子

新人看護師が計画的に看護技術を習得するために

堀本 恵、細見優子、川口智美

化学療法を受けるがん患者が看護師に求める説明についての現状調査

藤本由梨、野田さつき、濱砂佳子、砂川麻衣子、四條彩子、柿本由美子

胃切除を受けた患者への食事指導に対する看護師の認識

第 25 回日本環境感染学会総会 2010 年 2 月、東京

三五裕子、山本よしこ、福田 修

産婦人科病棟における結核排菌患者発生事例と対策

第 63 回日本消化器内視鏡学会 2009 年 10 月、京都

山田加代子、河野里砂

消化器内視鏡検査における鎮静剤使用患者に対する観察内容の変化

第 10 回日本医療情報学会看護学術大会 2009 年 6 月、東京

平井依恵、河野里砂、山田加代子、豊田恵美子、香川邦彦、大島至郎

電子カルテ導入に伴うリウマチ診療支援システムの開発

第 11 回日本医療マネジメント学会学術総会 2009 年 6 月、長崎

和田直子

確認行動定着のための安全唱和

看護学校

第 63 回国立病院総合医学会 2009 年 10 月、仙台市

森下まり子、増山路子、渡邊玲子、小森孝子、菅 喜代子、横川美代子、澤本万紀子、新庄和美、松元由美、新井文子

教員育成研修（授業研究）の取り組みとその成果 ～教員 1・2 年目を対象に実施して～

釘宮泰子、田村照子、佐藤美香、浦田由希子、吉田活子、梅宮美代、奥野美和、松川有美  
岡島優子、谷口秀美

点滴静脈内注射技術の卒業前演習 O S C E による技術到達度の評価と課題

高木あおい、横川美代子、森下まり子、林 律子、山田多加、奥野美和、小濱 薫、中島孝子、井下美恵、松川有美

卒業前実務研修の取り組みとその効果 ～新カリキュラム統合看護実習につなげる～

井下美恵、横川美代子、森下まり子、山田多加、奥野美和、高木あおい、林 律子、小濱薫、中島孝子、松川有美

看護学生の薬物療法に関する認識について ～実習での経験と危険予知の変化～

### (3) 研究会・講演

第 20 回近畿リウマチ病研究会 2009 年 9 月、大阪市

田中枝里子、棟方 哲、松下正人、大島至郎、佐伯行彦

悪性関節リウマチの治療中、アスペルギルス心膜炎、胸膜炎をきたした 1 剖検例

第 10 回加古川・神戸大学連携リウマチカンファレンス 2009 年 12 月、加古川市

佐伯行彦

RA と破骨細胞

第 18 回大阪リウマチカンファレンス 2009 年 12 月、大阪市

佐伯行彦

生物学的製剤の現況と今後の展望

Bio executive seminar 2009 年 1 月、大阪

大島至郎

レミケードが無効でエンブレルが著効した一例

南大阪膠原病カンファレンス 2009 年 6 月、大阪

中山祐季、田中枝里子、原田芳徳、片田圭宣、松下正人、大島至郎、佐伯行彦

突然の強い頸部痛、多関節炎を呈し入院加療を要した一例

南大阪膠原病カンファレンス 2010 年 2 月、大阪

村田 淳、田中枝里子、原田芳徳、片田圭宣、松下正人、大島至郎、佐伯行彦

多発性消化管潰瘍、腎炎、皮膚潰瘍を伴った Wegener 肉芽腫症の一例

リウマチケア研究会 2009 年 9 月、大阪

林奈緒子、大塚耕平、米倉美和、岡本紀代香、萩原 啓、武信綾華、小谷晴香、西山有香、世古与子、西菌博史、松下正人、大島至郎

リウマチ体操の意義と実践

近畿大学病診連携リウマチ研究会 2009 年 11 月、大阪

大島至郎

生物学的製剤とタクロリムスの併用療法

中ノ島リウマチセミナー 2009 年 12 月、大阪

大島至郎

生物学的製剤と感染症

RA トータルマネジメントフォーラム 2010 年 2 月、東京

大塚耕平、林奈緒子、米倉美和、岡本紀代香、萩原 啓、武信綾華、小谷晴香、西山有香、世古与子、西菌博史、松下正人、大島至郎

リウマチ体操の意義と実践

兵庫アレルギー研究会

片田圭宣

抗 IgE 抗体療法

膠原病友の会 平成 21 年度大阪支部総会・医療講演会・相談会 2009 年 5 月、大阪

片田圭宣

膠原病をめぐる現状と課題～医療と福祉の現場から～医療面における現状と課題

難病連講演会 2010 年 3 月、茨木市

片田圭宣

ステロイドについて

保健所講演会 2010 年 1 月、大阪府立寝屋川保健所

片田圭宣

SLE と妊娠

保健所講演会 2010年3月、和歌山市立保健所

片田圭宣

ベーチェット病

大阪南医療センター アレルギー膠原病談話会 2010年2月、河内長野市

片田圭宣

アレルギー週間によせて

大阪南医療センター特別講演 2009年4月、河内長野市

原田芳徳

安らかな眠りと豊かな夢をあなたに

大阪南医療センター特別講演 2009年11月、河内長野市

原田芳徳

膠原病について

保健所相談会 2010年3月、橋本市立保健所

原田芳徳

難病患者医療相談事業

第2回 K-SAMITO C.V.C. 2009年5月、大阪

今仲崇裕、服部 進、安岡良典、入野宏昭、安部晴彦、足達英悟、野田善樹、荒木 亮、  
松寺 亮、小杉元宏、佐々木達哉

化膿性関節炎と感染性心内膜炎を併発した1例

佐々木達哉

臓器保護をめざした降圧薬の選択

河内長野市医師会学術講演会 2009年5月、大阪

野田善樹

64列心臓MDCTの活用 ～当院でのこれまでの経過と今後の展望～

第7回 MOCHOT サークル 2009年6月、大阪

松寺 亮、野田善樹、安岡良典、入野宏昭、安部晴彦、足達英悟、服部 進、北田博一、  
森澤大祐、荒木 亮、今仲崇裕、佐々木達哉、浦西龍之介、棟方 哲

Angio-seal™使用後に血管内閉塞をきたし、血管内膜除去術を施行し改善を認めた一例

## 佐々木達哉

南の PCI

2009 年度阪大循環器部会 2009 年 8 月、大阪

荒木 亮、足達英悟、安岡良典、入野宏昭、安部晴彦、野田善樹、服部 進、今仲崇裕、松寺 亮、小杉元宏、佐々木達哉

PCI により左室機能が改善したため、偽性腱索による運動誘発性心室頻拍が生じた一例

服部 進、安部晴彦、安岡良典、入野宏昭、足達英悟、野田善樹、荒木 亮、今仲崇裕、松寺 亮、小杉 元宏、佐々木達哉

Influence of Coronary Artery Stent Implantation on Left Ventricular Global Torsion Demonstrated by 2-Dimensional Speckle tracking Echocardiography

第 29 回 Cardiovascular Conference (C.V.C.) 2009 年 10 月、大阪

松寺 亮、野田善樹、安岡良典、入野宏昭、足達英悟、服部 進、荒木 亮、今仲崇裕、小杉元宏、佐々木達哉

AV synchronized pacing により難治性心不全が改善した一例

第 3 回 K-SAMITO C.V.C. 2009 年 11 月、大阪

松寺 亮、野田善樹、安岡良典、入野宏昭、足達英悟、服部 進、荒木 亮、今仲崇裕、小杉元宏、佐々木達哉

AV synchronized pacing により難治性心不全が改善した 1 例

## 安岡良典

Stent 治療後の抗血小板薬はいつまで続けるべきか

第 28 回 MWS 研究会 2009 年 9 月、久留米

## 田伏克惇

マイクロウェーブの新しい展開

第 6 回関西がんチーム医療研究会 2010 年 3 月、大阪

森本茂文、香川邦彦、藤井加容子、北村良雄、田伏克惇

薬剤師と医療情報室員との Collaboration で発展する「診療 DWH を利用した抗がん剤容量の是正」の試み

谷島裕之、森本茂文、小林あゆみ、木村正道、辰林太一、辻本武宏、宮川義仁、石田興一

郎、富永敏治、玉川孝治、濱 卓至、坂口聡、庄野嘉治、椿原秀明、田伏克惇

当院におけるがん化学療法チーム医療推進のための情報共有化の現況

松本由紀子、松本康子、竹内皆男、濱 卓至、庄野嘉治、田伏克惇

大阪南医療センターにおける院内がん登録の現状

萬谷和広、濱 寛子、小澤哲也、庄野嘉治、南 慶一、田伏克惇

がん相談支援室における情報提供のあり方—患者会の有効性—

萬谷和広、濱 寛子、小澤哲也、庄野嘉治、南 慶一、田伏克惇

患者サロンから考える—患者と医者とのパートナーシップ—

田路章博、濱 卓至、香川邦彦、北村良雄、田伏克惇

がん性疼痛下における morphine、oxycodone および fentanyl 誘発鎮痛耐性の相違についての検討

野田さつき、田村彰子、松田勇児、濱 卓至、田伏克惇

疼痛アセスメントシートの活用を通じて—がん看護リンクナース会の活動報告—

第 33 回南大阪インターフェロン研究会 2009 年 6 月、堺市

肱岡泰三

データマイニング手法を用いた効果的なC型慢性肝炎に対する治療方法に関する研究—厚生省データマイニング研究八橋班（国立病院機構肝疾患 NW）成績—

第 45 回 日本肝癌研究会 2009 年 7 月、福岡

川端由梨、瀧川貴生、松本健吾、廣谷 環、向井香織、榊原祐子、中西文彦、田中好男、増

田栄治、肱岡泰三、棟方 哲、橋本和彦、竹田雅司、佐々木洋

インターフェロン併用 5-FU 動注療法（F A I T 療法）により外科的切除をしえた胆管腫瘍栓を伴う再発肝細胞癌の一例

第 1 回南河内消化器病懇話会 2009 年 8 月、大阪市

田中好男

肝癌治療の現状と地域連携パス

肱岡泰三

C 型慢性肝炎治療の現状

—医療費助成制度とガイドラインを含めて—

肝臓病市民フォーラム 2009年5月、堺市

肱岡泰三

C型慢性肝炎の治療ガイドラインについて -2009年度版ガイドラインと医療費助成制度の改定ポイント-

肝臓病市民フォーラム 2009年10月、堺市

肱岡泰三

肝細胞癌の特徴 -他の5大癌と比較して-

肝臓病市民フォーラム 2010年3月、貝塚市

肱岡泰三

変わりつつあるB型肝炎の常識

田中好男

肝がんの早期診断と最新の治療

平成21年度政策医療(がん看護)プロジェクト教育プログラム 2009年6月、河内長野市

肱岡泰三

がん政策医療とがんの基礎知識

平成21年がん専門薬剤師研修プログラム 2010年1月、河内長野市

肱岡泰三

がん政策医療とがんの基礎知識

平成21年度第2回 厚生労働科学研究費 肝炎等克服緊急対策研究合同班会議  
2010年2月、長崎

肱岡泰三

不顕性感染後に慢性化したB型肝炎 genotypeAの一症例

第6回大阪医科大学産婦人科オープンリンクルカンファレンス 2009年5月、大阪府

百谷起代子、田中智人、森嶋祥子、岩井恵美、神田隆善

多発性嚢胞腎による低腎機能子宮体癌症例に対するbiweekly TC療法

第7回大阪医科大学産婦人科オープンリンクルカンファレンス 2009年10月、大阪府

百谷起代子、田中智人、岩井恵美、神田隆善

腹壁子宮内膜症の2例

第 18 回母乳育児シンポジウム 2009 年 8 月、北海道

神田隆善、香川邦彦、宮崎成子、齋木博美

チームで支える母乳育児支援 ―おっぱい外来支援システムの開発―

第 1 回関西婦人科腫瘍・病理懇話会 2009 年 11 月、京都府

棟方 哲、百谷起代子、田中智人、岩井恵美、神田隆善

子宮頸部 adenoid basal carcinoma の 1 例

第 7 回内膜細胞診勉強会 2009 年 4 月、京都市

棟方 哲

組織標本の見方

第 16 回大阪病理研究会 2009 年 11 月、吹田市

棟方 哲、玉川孝治、岩井恵美、田中智人、百谷起代子、神田隆善、田伏克惇

不正性器出血を主訴に産婦人科を受診し発見された乳腺腫瘍の 1 例

救急放射線研究会 2009 年 10 月、和歌山市

田中佐織

フィルムリーディングセッション

第 36 回大阪脊椎外科フォーラム 2010 年 1 月、大阪市

牧野孝洋、細野 昇、三輪俊格、武中章太、向井克容、富士武史

後方進入腰椎椎体間固定術後の難治性感染に対し後方より搔爬・骨移植を行い骨癒合を得た 1 例

第 20 回南河内整形外科カンファレンス 2009 年 5 月、大阪

米延策雄

脊椎関係診療ガイドラインと運動器疾患診療の方向性

腰痛セミナー in 城南 2009 2009 年 6 月、東京

米延策雄

E B M な腰痛診療の進め方

整形外科リスクマネジメントセミナー 2009 年 6 月、千葉

米延策雄

脊椎外科・整形外科におけるリスクマネジメント

第 198 回新潟整形外科研究会 2009 年 9 月、長岡

米延策雄

脊椎・関節外科におけるコンピュータ支援外科

岐阜県 LBP 学術講演会 2009 年 9 月、岐阜

米延策雄

診療ガイドラインに基づく非特異的腰痛のプライマリ・ケア

Meet the Expert-運動器疼痛治療におけるパラダイムシフトー 2009 年 9 月、東京

米延策雄

腰痛症治療における整形外科医の果たす役割 -COX-2 選択性阻害剤の最新のデータを踏まえて-

南大阪腰痛症セミナー 2009 年 10 月、堺

米延策雄

腰痛症のプライマリ・ケア

Sapporo Orthopaedic Seminar(2009) 2009 年 11 月、札幌

米延策雄

脊椎・関節外科分野におけるコンピュータ支援外科

筑後臨床整形外科医会(第 13 回筑後地区脊椎外科研究会) 2009 年 12 月、久留米

米延策雄

脊椎・関節外科分野におけるコンピュータ支援外科

乙訓医師会学術講演会 2009 年 12 月、京都

米延策雄

ロコモティブシンドローム

第 54 回沖縄整形外科学研修会 2009 年 12 月、那覇

米延策雄

整形外科、脊椎外科のリスクマネジメント

第 25 回関西股関節研究会 2009 年 12 月、大阪

小山 毅、斉藤正伸、萩尾佳介

臼蓋同種骨移植を併用した THA 再置換術(5 年以上)の検討

大阪府難病連 医療相談会 2009年10月、大阪

海渡貴司

後縦靭帯骨化症

第5回阪和腎病理検討会 2009年4月、堺

高山東仁、北庄司絵美、岡田 規、近森康宏、安東 豊

腎生検で診断のついた血管内リンパ腫の一例

第4回阪大腎病理カンファレンス 2009年9月、大阪市

北庄司絵美、高山東仁、近森康宏、安東 豊

診断に苦慮した急性腎不全の一例

第6回阪和腎病理検討会 2009年10月、堺

北庄司絵美、高山東仁、岡田 規、安東 豊

全身の皮膚潰瘍と上部および下部消化管潰瘍を伴い、腎機能低下を認めた一例

南大阪保存期腎不全を考える会 2009年4月、河内長野市

安東 豊

保存期腎性貧血治療と病診連携

河内長野市医師会学術講演会 2009年11月、河内長野市

安東 豊

日常診療におけるCKDと病院連携について

阪南循環器談話会 2009年4月、堺

幸原晴彦

糖尿病地域連携パスについて

南河内地域医療ネットワーク 2009年4月、河内長野市

幸原晴彦

地域医療の活性化の新たなる戦略

第3回大阪南生活習慣病フォーラム 2009年7月、大阪

幸原晴彦、福田正博

診療所でも出来る実践的食事・運動指導

医療現場におけるコミュニケーション 2009年7月、大阪

幸原晴彦

不安感と合気道

大阪大谷大学薬学部地域連携学術交流会 2009年9月、大阪

幸原晴彦

糖尿病合併症予防にむけた最新治療

Humalog Academic Round Table 座談会 2009年9月、大阪

幸原晴彦

大規模心理介入療法

河内長野市医師会第10回学術講演会 2010年1月、大阪

幸原晴彦

『河内長野の応戦』現況報告 生活習慣病の機能的社会診療体制

第2回母乳育児支援を学ぶ滋賀教室 2009年9月、近江八幡市

山本よしこ

母乳で育つ子どもの発育と健診のポイント

第5回医師のための母乳育児支援セミナー 2009年11月、札幌市

山本よしこ

ワークショップ：母乳栄養児の発育についての諸問題

生後1ヵ月以降の体重増加不良

第2回西日本エリアミーティング 2010年2月、大阪市

山本よしこ

新型インフルエンザと母乳育児

第3回大阪胎児心臓スクリーニング研究会 2009年9月、大阪

林 丈二、稲村 昇、萱谷 太、河津由紀子、濱道裕二、前川 周、門田 茜、夫 律子

巨大動脈瘤を伴い、心拡大が進行した左冠動脈瘻の胎児診断例

第6回関西がんチーム医療研究会 2010年3月、大阪

森本茂文、香川邦彦、藤井加容子、北村良雄、田伏克惇

薬剤師と医療情報室員との Collaboration で発展する「診療 DWH を利用した抗癌剤用量の

是正」の試み

感染管理コース 2009年10月、羽曳野市

三五裕子

職業感染防止

富田林感染症セミナー 2009年11月、富田林市

山本よしこ

予防接種 最新事情

第20回呼吸器ケア研究会 2010年2月、大阪

川上浩美

NPPVを要するCOPD患者の退院支援に関わって

第18回日本創傷・オストミー・失禁ケア研究会 2009年5月、仙台

滝本光子、松田浩子

油脂性基剤を塗布したガーゼとフィルムドレッシングを併用し創傷治癒環境の整備ができたI度熱傷～深達度II度熱傷の1症例

第18回母乳育児シンポジウム 2009年8月、札幌

原 千賀、齋木博美、宮崎成子

WHOの母乳育児観察用紙を用いて授乳時の観察能力を把握する

平成20年度循環器疾患研究助成研究発表会 2010年2月、大阪

武田真理、富岡映美、西脇弥保子、松本裕子、千葉香苗、松本由美、西村由美子

心不全患者への個別指導への取り組み

第7回大阪南医療センター臨床研究部公開発表会 2010年3月、河内長野市

海渡貴司

生物学的製剤投与が関節リウマチ患者の頸椎病変に与える影響

川上浩美

当院の退院支援システムの構築-チームで取り組む退院支援体制の整備に向けた取り組み-

齋木博美

院内母乳育児支援システムを応用した地域助産師との母乳育児支援連携

### 井下美恵

看護基礎教育における薬物療法看護の教授方法の検討

### 田井中幸子

南河内医療圏の在宅看護での栄養管理の実態調査

### 森本茂文

オーダーリング機能を利用したシステムでの抗癌剤用量の是正の試み

### 岩瀬嘉壽子、大島至郎、松下正人、斎藤正伸、羽田かおる、圓城寺若菜、平井依絵、香川邦彦、井谷裕美子

RA 患者の医療連携システムの構築～かかりつけ医との医療連携強化に向けた取り組み～

### 萬谷和広

社会資源としての SHG の有用性 一患者会・患者サロンを中心とした半構造的面接調査一

### 大島至郎

自己免疫疾患と糖鎖異常

### 橋川一雄

QSPECT による脳血流量定量測定：再構成法および採血誤差についての考察

### 冨永敏治

p53 の遺伝子変異と多型解析による大腸癌化学療法の効果予測

### 藤原啓恭

腰椎椎体間固定術後の「椎間の持ち上げ距離」の隣接椎間障害への影響について

### 幸原晴彦

糖尿病地域医療連携から南河内医療情報連携への展開

### 平木精一

平成 21 年度 治験管理室 業務報告

第 6 回関西がんチーム医療研究会 2010 年 3 月、大阪市

萬谷和広、濱 寛子、小澤徹也、庄野嘉治、南 慶一、田伏克惇

がん相談支援室における情報提供のあり方 - 患者会の有効性 -

濱 寛子、萬谷和広、小澤徹也、庄野嘉治、南 慶一、田伏克惇

患者サロンから考える - 患者と医療のパートナーシップ -

平成 21 年度近畿ブロック医療技術研修「クリティカルパス研修会」2009 年 12 月、和歌山

萬谷和広

患者視点におけるパスの運用

関西大学文学部 ソーシャルワーク論 2009 年 11 月、大阪

萬谷和広

医療ソーシャルワークとは

萬谷和広

癌関連施策の方向性とがん診療連携拠点病院・がん相談支援室（1）

萬谷和広

癌関連施策の方向性とがん診療連携拠点病院・がん相談支援室（2）

#### （4）メディアなど

新聞

府医ニュース 平成 21 年 4 月 22 日

幸原晴彦

河内長野の応戦 基礎方法論・律動的病診連携とは

府医ニュース 平成 21 年 5 月 20 日

幸原晴彦

河内長野の応戦 地域医療支援病院と医師会

府医ニュース 平成 21 年 5 月 6 日

幸原晴彦

河内長野の応戦 患者の不安、府医ニュース

府医ニュース 平成 21 年 5 月 27 日

幸原晴彦

河内長野の応戦 合気道・勤務医のメリット

府医ニュース 平成21年6月3日

**幸原晴彦**

河内長野の応戦 社会的ジレンマ

府医ニュース 平成21年6月12日

**幸原晴彦**

河内長野の応戦 合併症精査・クリティカルパス

府医ニュース 平成21年6月24日

**幸原晴彦**

河内長野の応戦 逆紹介の意味

府医ニュース 平成21年7月1日

**幸原晴彦**

河内長野の応戦 駆け引き

府医ニュース 平成21年7月15日

**幸原晴彦**

河内長野の応戦 ファイバースコープ効果

府医ニュース 平成21年7月22日

**幸原晴彦**

河内長野の応戦 律動的病診連携と総合医制度・診療所と病院・今後の医療提供体制

対談

HART in Osaka 平成21年9月14日

**幸原晴彦、細井雅之、朴 孝憲、武呂誠司、下村伊一郎**

糖尿病の地域連携と合併症予防

かかりつけ医を持とう！ 平成21年8月31日

**幸原晴彦、米延策雄**

地域で目指す医療の理想は患者の安心感を重視したシームレスは医療 ご近所ドクターN  
E T

## V. 主な論文

## 編集後記

平成21年度は、電子カルテ更新、病院機能評価とBFH(Baby Friendly Hospital)受審が重なり、病院全体極めて多忙でありましたが、臨床研究においても例年どおりの業績を達成することができました。余力さえ感じられ、職員の皆様の潜在能力の高さに驚きました。

これからも、是非、このすばらしい潜在能力をますます発揮していただき、当院の臨床研究の推進にご協力いただくことをお願いいたします。

臨床研究部長  
佐伯行彦